

会場の様子

長稿
研究科
医学部
医学

総合研究棟（臨床研究棟）の 旧第一病棟への移転と史跡問題

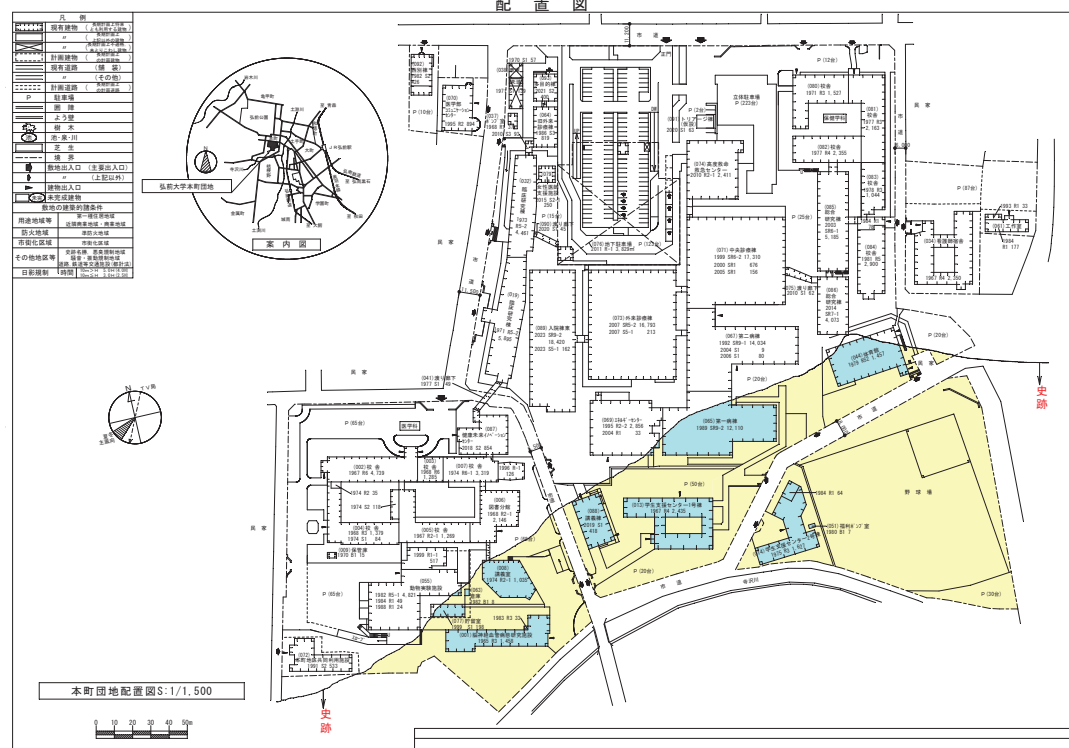
医学研究科長 廣田 和美



附属病院の新病棟建築に際し、現在の臨床研究棟を取り壊して建てる必要性があることから、臨床研究棟は、旧第一病棟を改装して、総合研究棟（臨床系）として移転することになった（図）。しかしながら、現在の臨床研究棟の面積より旧第一病棟の面積は約二十%少ないため、現在より手狭になる。一方、現在各講座の占有面積は、講座の構成員数などから見ると必ずしも適正とは言えない。このため、移転に際し、各講座の占有面積を現在の各講座の構成員数をもとに再計算して算出した。また、実験室は現在各講座に隣接してあるが、臨床系の講座での実験は、主に大学院生が行っているため、物品の管理が不適切なことがある、毎年の監査で同じ点を指摘される講座が複数ある。これは実験室を実質的に管理している者が大学院生であり、実験を行う大学院生は学位の実験が終了すると実験室に來なくなることも多いため、実質的な管理者も毎年変わることで、監査での指摘事項がきちんと申し送りされていない可能性が高い。このような不

適切な管理はいずれ事故へ繋がる恐れがある。よって、総合研究棟では、実験室を地下一階と地上一階部分に集約し、管理人を置くことで、不適切な管理が放置されないようにする予定である。勿論、何かあった際には管理人の責任ではなく、各講座の責任になるので、引き続き適正な実験室運営をお願いしたい。また、実験室が今よりは狭くなるので、基礎棟の基礎講座のスペースを整理して、臨床系講座用の実験スペースを生み出すことを考えている。さらには、現在、光熱費が高騰しており、医学研究科の現状の予算だけでは、運営が厳しくなっていることから、施設維持管理経費（スペースチャージ）を導入し、講座の面積に応じた部屋の使用料を各講座から徴収することとした。占有面積が広い講座ほど使用料が高くなるため、広い面積を保有する基礎講座では支払えない講座も出てくるのが予想され、その場合に実験室を、普段共同研究をしている臨床系講座と共用することで臨床講座と使用割合に応じて支払いを分割するか、部屋によっては全て供出することで、これまでの基礎講座の研究に影響があまり出ずに、また臨床講座の実験室も確保できるようにしたい。

ここで問題となるのが、本町キャンパスには史跡指定となっている部分がある、かなりの面積を占めていることである。弘前市では、弘前城、長勝寺構、新寺構の三地点が、昭和二十七年三月二十九日に、国の指定史跡となった。そして、本町キャンパスでは、新寺構の溜池跡地として、南塘グラウンドを中心に、脳神経血管病態研究施設、講義室基礎大講義室、基礎第一・第二講義室、弘前大学保育園、新講義棟、学習支援センター一号楼、学習支援センター二号楼「交流館」（大学生協店舗を含む）、旧第一病棟の大半が入る部分が史跡指定となっている（図）。そして史跡指定されている部分では、杭を打つことも舗装することも許されないため、一度建物を壊すと二度と建てるのができない。実際には、昭和二十七年以降に多くの建物が建造されているが、弘前市教育委員会に確認したところ、本来は認められず、それ故、立て直しは認められないとのことであった。また、遺跡であれば、一度調査をして埋め戻すこと



でそこに建物を建てるのが可能だそうであるが、史跡の場合には指定が外れない限り、現状保存のための新たな建物は建てられないとのことであった。このため、総合研究棟となる旧第一病棟は内部の改装は可能であるが、増築などはできない。また、基礎棟と総合研究棟を渡り廊下でつなぐこともできない。平成三十一年三月二十六日に竣工した講義棟は新病棟建築のために、臨床講義室を取り壊す必要性があったことから、一時的に建てて使用することが認められただけであり、新しく臨床講義室ができれば、壊さなければなら

ない。現在ある基礎棟に隣接する講義室、学生支援センター一号楼・二号楼、弘前大学保育園は老朽化が進んでおり、近い将来立て直しが必要になる。しかし、建て替える場所が本町キャンパスにはない。今でも、慢性的に駐車場が不足しており、南塘グラウンドを野球場としての使用を九月で止めて、駐車場化しようとしたが、アスファルトで舗装することは文化庁で認めてはくれない、鉄板を敷いての使用となる可能性が高い。学生支援センター一号楼では、臨床実習前の公的試験のOSCEが行われており、さらには今後国家

試験（実技）となるのが想定されている卒業時のPost-OSCEもこの建物で行っていることから、その場所を失うことは国家試験を施行できないことになる。また、講義室がなくなれば、授業の開講に甚大な影響が出る。さらに、弘前大学保育園がなくなれば、共働き医師の子供の預け先がなくなり、男女共同参画推進にも甚大な影響が出る。学生教育、診療に大きな影響を及ぼす可能性が高いこの史跡問題は、今までただ先送りされてきたわけであるが、十・二十年後に建物の老朽化というタイムリミットを迎えることから、そろそろ決着をつけなければならぬ。

このため、今年度将来構想WGを立ち上げ、本町キャンパスの移転も含めて話し合うことにした。勿論、誰も移転は望んではいないが、利用できる土地がなければ、物理的に移転以外の選択肢がなくなるわけである。今後は、附属病院の再開発計画、駐車場不足に加え、医学部の将来構想についても直接弘前市に説明する機会を作り、史跡問題について協議する予定であり、文化庁に御理解頂くために説明を継続していくこととしている。進展があり次第、皆様に順次報告して行く予定である。

弘前から新たな挑戦

内分泌代謝内科学講座 教授 藤田 征弘



令和五年十月一日付で内分泌代謝内科学講座教授として赴任しました。教職員、学生の皆様よりしくお願ひします。私は兵庫県出身で、平成五年に滋賀医科大学を卒業しました。初期研修・大学院・臨床研修（大阪）を修了したのち、カナダ・バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学に四年半留学しておりました。その後、旭川医科大学に十一年間、さらに母校の滋賀医科大学に五年間在籍しておりました。このたび伝統のある弘前大学で仕事ができることになり、有り難く非常に誇りに思っております。

研究の専門分野は糖尿病学で、その中でも消化管ホルモンや糖尿病における消化管の役割を長年研究して参りました。私が「消化管と糖尿病の研究」を始めた約三十年前は、ほとんどこの分野に興味をもって研究をしている日本人はいませんでした。留学中に基礎研究していたGIP（Glucose dependent Insulinotropic Polypeptide）は、私の在籍した教室でインクレチン（消化管から分泌される血糖依存性にインスリン分泌を促進するホルモン）として初めて発見されました。最近までGIPは肥満を助長するのではないかと考えられ、臨床的に治療薬として注目されてきませんでした。しかし、新しい糖尿病薬でGLP-1アナログ（Glucagon-like peptide-1 analog）として、世界にその成果を発信していきたく思っています。さらに、病める人と寄り添いながら青森県の健康長寿増進へ一緒に貢献できる教室を運営したいと切望しています。

行ってきました。また、滋賀医科大学では病棟医長、糖尿病内分泌内科長として内分泌診療にも深く関わっており、人間万事塞翁が馬といえます。目先のことでなく新しい観点から目標をたて、地道にやっていくことで、回り道しても最後に実現できることがあると信じています。弘前で素晴らしい仲間との出会い、新しい発見を求め、今までの経験を活かして未来への挑戦ができるかと信じています。是非、弘前大学の学生の皆様や若い先生にわれわれの「新しいチーム」に加わって頂き、内分泌代謝学の基礎・臨床研究の発展に貢献し、世界にその成果を発信していきたく思っています。

教授就任に際してのご挨拶

皮膚科学講座 教授 赤坂 英二郎



輔教授と受け継がれ、私で六代目となります。先輩方が築かれていた素晴らしい伝統と歴史を汚さぬよう、精一杯努力して参りたいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。

私は岩手県盛岡市出身で、盛岡第一高等学校を卒業後、弘前大学医学部に入學し平成十五年に卒業いたしました。医学部在籍中はバスケットボール部に所属しておりました。卒業後は弘前大学医学部附属病院および青森県立中央病院で初期研修を行ったのち、花田勝美教授、第五代・澤村大

私が皮膚科医を志したのは、医学生時代に研究室研修で皮膚科をまわった際に、遺伝性皮膚疾患に興味を持ったからです。約三十億ある塩基対のたった一つ

さて、青森県、秋田県北の皮膚科医療の現状に目を向けますと、皮膚科常勤医や皮膚科開業医の不足、皮膚悪性腫瘍の治療拠点病院の不足など、解決しなければならぬ多くの問題がございます。今後、患者さんやご家族が安心して治療を行うことができるような皮膚科医療体制を確立するため、教室員一丸となってがんばってまいりたいと思っております。また、私自身も弘前大学のさらなる発展のため研究・診療・教育に誠心誠意取り組みたいと所存でございます。今後も様々な形で各講座の皆様にご協力を仰ぐことがあるかと思いますが、何卒ご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

日本核医学会の英文誌 Annals of Nuclear Medicine (ANM) の査読を多く行ったことに対する「Certificate of Appreciation」通称「査読者賞」を頂きました。なぜそんなに査読したか、実は私自身ANMの編集委員の一人であったのです。

二〇一九年、私に編集委員就任の依頼がありました。務まるのか悩みましたが、高名な先生のご推薦もあり、折角の機会、チャレンジしてみようとお受けしたのでした。

編集委員はassignedされた論文を確認した上で、少なくとも二名の先生に査読依頼のメールを送るのが最初の仕事です。ただ、皆がすんなり受けてくれるとは限らず、受けても期限を過ぎて音沙汰もない方もいます。もう一人何とか：やむなく編集委員自らが査読

する事態となります。(適切な表現でないですが、私はこれを自爆営業ならぬ自爆査読と呼んでいます。) 査読を断る理由として「専門領域外」が多いですが、編集委員は関係なく受けることとなります。平日は遅くまで読影、とてもその後査読など出来る状況ではなく、週末に一気に阿成に行いました。自分で論文書くのも思うに任せないのに、他人の論文にあれこれ英文で書く、本当にこれで本意が通じるだろうか？など悩んだこともありましたが、幸いにして私の知る限り大きな問題はなかったようです。

このような事態で日々ぐだめいて、いた私を支えてくれた家内には心より感謝です。多くの先生方も査読を依頼されることがあると存じますが、依頼があったら速やかに受ける、断る、の返信をお願いいたします。断れたらまた別の先生を探すことが出来ませんが、放置されると進められません。確かに査読は無報酬かつ手間で、無駄、と考える先生もいらっしゃるでしょう。しかし教員業績評価の社会貢献分野で国際学術誌の査読の素点は二点です。十回査読すれば二十点。ちなみに診療分野における画像診断の素点は〇・〇〇一で、仮に一万件レポートしたとしても十点。画像管理加算三を取得し、診療に貢献している自負があります。この素点、ケタが違っているんじゃないか？とこの場で言うつもりはないですが(言いたいです)、英文誌の査読はポイント加算に非常に有効です。また impact factor 向上のためにANMから参考文献を挙げて頂ければと願う次第です。



教授就任にあたってのご挨拶

泌尿器科学講座 教授 畠山 真吾

出身で秋田高校から秋田大学医学部へ進学しました。中学校では軟式テニス部、高校はラグビー部(フ兰卡)、大学時代は硬式テニス部と軽音サークルに所属しておりました。中学時代は厳しい練習のおかげで秋田県の全県大会で優勝した経験もありますが、大学時代はテニスよりも音楽活動を中心に行っておりまし

この度、令和五年十月一日付で弘前大学大学院医学研究科泌尿器科学講座の主任教授を拝命いたしました。これまでお世話になった皆様に、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。また自己紹介を兼ねて就任のご挨拶を申し上げます。私は秋田県八郎潟町の

二〇〇〇年(平成十二年)に卒業し、秋田大学泌尿器科に入局して秋田県で泌尿器科医として勤務しておりましたが、前任の大山力名誉教授(当時秋田大学泌尿器科の講師)に大学院の指導をしていただいたことを契機に、二〇〇五年に弘前大学泌尿器科学講座で働く機会をいただきました。弘前大学附属病院では腎移植やロボット支援手術の立ち上げに参加させていただき、また多施設共同研究を多く担当させていただきました。また、二〇〇六年から二〇〇八年まで、米国

La Jolla のバーナム研究所に留学させていただき、基礎研究にどっぷり漬かった濃厚な二年間を過ごすことができました。バーナム研究所は全米オープンが行われる「Torrey pinesゴルフコース」の目の前にあり、二〇〇八年にタイガー・ウッズが全米オープンでプレーオフの末に優勝した時、同じ場所にあったのですが、私はマウス実験で余裕がなく全然見ることができなかったのをよく覚えております。幸いにして、留学中に開発した癌特異的ペプチドは、中性子捕捉療法と組み合わせることで更なる発展を遂げ、現在臨床応用に向けて進んでおります。研究成果が臨床に還元でき、多くの患者さんに届けられるよう、開発を続けて参りたいと思います。

Certificate of Appreciation
Annals of Nuclear Medicine

Dear, Dr. Miura, Hiroyuki

Thank you very much for your frequent contribution to improve the quality of papers published in the Annals of Nuclear Medicine by reviewing them.

Recently, the editorial board investigated the records of reviewers in order to find those who enthusiastically provide us with their high expertise to review manuscripts submitted to ANM. Subsequently, we have known that you have served as a reviewer more than 8 times in 2021 and 2022.

We, the members of the editorial board, would like to express our sincere gratitude to you for your valuable time and efforts for the development of ANM.

August, 2023

Kazunari Ishii
Editor-in-Chief
Annals of Nuclear Medicine

この掲載時点で私の編集委員の任期は終了しておりますが、今後も査読は積極的に引き受け、出来れば非編集委員でも査読者賞が頂けるようになれば、と考えております。

一般社団法人日本核医学会
学会誌査読者賞を受賞

余八如何ニシテ Annals of Nuclear Medicine 査読者賞を受賞シ乎

放射線診断科 講師 三浦 弘行

ますが、依頼があったら速やかに受ける、断る、の返信をお願いいたします。断れたらまた別の先生を探すことが出来ませんが、放置されると進められません。確かに査読は無報酬かつ手間で、無駄、と考える先生もいらっしゃるでしょう。しかし教員業績評価の社会貢献分野で国際学術誌の査読の素点は二点です。十回査読すれば二十点。ちなみに診療分野における画像診断の素点は〇・〇〇一で、仮に一万件レポートしたとしても十点。画像管理加算三を取得し、診療に貢献している自負があります。この素点、ケタが違っているんじゃないか？とこの場で言うつもりはないですが(言いたいです)、英文誌の査読はポイント加算に非常に有効です。また impact factor 向上のためにANMから参考文献を挙げて頂ければと願う次第です。

第12回日本性機能学会

白井賞を受賞

むつ下北地域医療学講座 講師 藤田尚紀

この度は榮譽ある日本性機能学会 白井賞を頂戴し誠に光栄に存じます。白井賞は、日本における性機能研究の若手研究者の更なる発展を目指した賞であり、学会創設者の白井將文氏の名前が付けられた日本性機能学会の最高論文賞です。今回受賞いただきました論文は「The World Journal of Men's Health」に掲載された「Association between Advanced Glycation End-Products, Carotenoids, and Severe Erectile Dysfunction」です。終末糖化産物の蓄積は勃起障害（ED）の原因となることが過去に報告されており、反対にカロテノイド・ビタミン類の血中濃度は高いほどEDは軽症である

者さんでしか検討されておらず、健康人においてもこれらの関係性が成り立つかは不明でした。また、酸化ストレスもEDの原因としてよく知られておりますが、抗酸化作用を有するカロテノイド・ビタミン類とEDまたは終末糖化産物の蓄積との関係性も不明でした。本論文では、二〇一五年度の岩木健康増進プロジェクトのデータを活用させていただいて、地域在住民におけるこれらの関係性を検討しました。結果として、皮膚終末糖化産物濃度はED重症度と相関しており、反対にカロテノイド・ビタミン類の血中濃度は高いほどEDは軽症であ

ることが分かりました。中でも血中ゼアキサンチン濃度は皮膚終末糖化産物濃度とも有意に負に相関しており、終末糖化産物の蓄積を抑えることでEDの重症化を防ぐ効果を有する可能性が示唆されました。横断的研究ですので断定的な結論を出すことはできませんが、今後の介入研究に発展させることができる内容と思っております。本研究内容は岩木健康増進プロジェクトに参加していただいた地域住民の方々、弘前大学健康未来イノベーション研究機構、カゴメ株式会社のご協力がなければ得られなかった知見であり、この場をお借りし



て深く御礼申し上げます。当科はこれまで性機能関連の学会発表や論文投稿などには力を注ぐことはできて

おりませんでした。この受賞を機に本邦からのエビデンスの発信に尽力したいと思えます。

VASによる末梢神経障害の評価、副次評価項目として鎮痛補助薬の使用有無、化学療法完遂率、化学療法六ヶ月後の末梢神経残存について比較しました。

ことができたことは、多くの皆様のご協力のおかげです。

今回の研究をご指導いただいた産科婦人科学講座の横山良仁教授、現東京医大茨城医療センターの二神真行先生、東北婦人科腫瘍研究会の先生方、研究に携わった全てのスタッフの皆様に感謝申し上げます。

また、治療終了後の末梢神経障害残存が有意に少なく、鎮痛補助薬を使用せず治療完遂できる結果が得られました。

末梢神経障害の原因は複数にわたっており、決して漢方のみで解決できるものではありません。漢方領域で前向き試験を行うことは難しいと

されていますが、牛車腎気丸の末梢神経障害に対する基礎研究から始まり、臨床試験まで完遂する

この度、二〇二三年九月三日に鹿児島市で開催された第四十二回産婦人科漢方研究会学術集会において、優秀演題賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。この賞は、優秀演題賞候補六題の中から、発表内容が四名の審査委員に審査され決するものであります。発表したテーマは、「パクリタキセルの末梢神経障害に対する牛車腎気丸の投与の効果―東北婦人科腫瘍研究会多施設共同前方視的研究―」でした。婦人科腫

瘍で最も頻用される化学療法の一つであるパクリタキセルは末梢神経障害が高頻度で出現し、患者のQOLを大きく損ない、治療完遂へも大きく関わってくる非常に重要な有害事象です。パクリタキセルは膜貫通型受容体の transient receptor potential (TRP) V4を増加させ、四肢の疼痛閾値を低下させること、また牛車腎気丸の予防投与は、パクリタキセルのTRPV4増加を抑え疼痛閾値を保つことができることを動物実験から

証明し、学位を取得いたしました。今回の研究は、東北婦人科腫瘍研究会のご施設にご協力いただき、牛車腎気丸の予防投与の有用性を前方視的に比較検討いたしました。具体的には卵巣癌術後にパクリタキセル・カルボプラチン療法を行う患者を、末梢神経障害発現後より牛車腎気丸を内服する群と、化学療法一週間前から牛車腎気丸を服用する予防投与群にランダム化し、主要評価項目としてCTCAE、

床試験まで完遂する

日本集中治療医学会第7回東北支部学術集会

最優秀演題賞を受賞

集中治療部 助教 木下裕貴

集中治療部の木下裕貴と申します。この度、日本集中治療医学会第七回東北支部学術集会におきまして最優秀演題賞を受賞いたしましたので報告させていただきます。今回「ICU入室後二十四時間データをを用いた術後せん妄予測のための推論モデルの確立」という題名で研究成果の発表をさせて頂きました。術後せん妄は術後認知機能の低下などの神経学的な予後だけではなく、死亡率の上昇、ICU・院内滞在日数の延長、医療費の増大などに関連するため、高齢化が急速に進む日本社会において喫緊の課題といえます。二〇二〇年の診療報酬改定でせん妄ハイリスク患者ケア加算が新設されましたが、全身麻酔下で手術を受ける高齢患者は全員リスクありに該当するため、多くの高齢手術患者からどの患者を綿密にケアすべきかを医療スタッフが把握できていないのが現状です。そこで今回医学医療情報学講座の佐々木賀広教授と共同で、ICUデータ

ベースを基にAIによる術後せん妄推論モデルを確立し、医療従事者がより活用しやすい術後せん妄予測モデルとアラートシステムの実装を目指すこととしました。今回の発表はICUの過去のデータから確立した術後せん妄推論モデルの精度について発表を行いました。が、今後はICU入室時点における各患者の術後せん妄発症確率について、カルテ上に表示する等の医療スタッフが認知できるような実装を検討しています。アラートシステムの導入により、現場のメンバーの集約および患者安全性を向上させることが最終的な目標です。今回の受賞を励みとし、術後せん妄に関する研究を

更に発展させていきたいと思えます。最後になりましたが、本研究の御指導頂きました医学医療情報学講座の佐々木賀広教授、当講座の廣田和美教授、共同研究者の先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



第42回産婦人科漢方研究会

優秀演題賞を受賞

産科婦人科 助教 松村 由紀子

この度、二〇二三年九月三日に鹿児島市で開催された第四十二回産婦人科漢方研究会学術集会において、優秀演題賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。この賞は、優秀演題賞候補六題の中から、発表内容が四名の審査委員に審査され決するものであります。発表したテーマは、「パクリタキセルの末梢神経障害に対する牛車腎気丸の投与の効果―東北婦人科腫瘍研究会多施設共同前方視的研究―」でした。婦人科腫

瘍で最も頻用される化学療法の一つであるパクリタキセルは末梢神経障害が高頻度で出現し、患者のQOLを大きく損ない、治療完遂へも大きく関わってくる非常に重要な有害事象です。パクリタキセルは膜貫通型受容体の transient receptor potential (TRP) V4を増加させ、四肢の疼痛閾値を低下させること、また牛車腎気丸の予防投与は、パクリタキセルのTRPV4増加を抑え疼痛閾値を保つことができることを動物実験から

証明し、学位を取得いたしました。今回の研究は、東北婦人科腫瘍研究会のご施設にご協力いただき、牛車腎気丸の予防投与の有用性を前方視的に比較検討いたしました。具体的には卵巣癌術後にパクリタキセル・カルボプラチン療法を行う患者を、末梢神経障害発現後より牛車腎気丸を内服する群と、化学療法一週間前から牛車腎気丸を服用する予防投与群にランダム化し、主要評価項目としてCTCAE、

床試験まで完遂する

この度、令和五年九月九日に仙台国際センターで開催されました日本麻酔科学会北海道・東北支部第13回学術集会 最優秀演題賞を受賞

集中治療部 助手 加藤 広 大

(次ページへ続く)

（前ページより）

亡率の増加などに関連します。術後せん妄の発症機序については解明されていない部分が多いものの、その中で脳内炎症が注目されており、麻酔科学講座ではかねてより悪性腫瘍手術における術前の炎症マーカーと術後せん妄の関連について検討を行ってきました。また尿酸は痛風発作の原因だけでなく脳血管障害や心筋梗塞などの危険因子でもあり、一般的には悪として捉えられていますが、一方でパーキンソン病などの神経変性疾患やうつ病などにおいては神経保護作用があることが報告されています。今回の研究では、良性疾患である脊椎変性疾患において術前の好中球リンパ

球比および尿酸が術後せん妄と関連するかについて後ろ向きに検討し、同学会で報告しました。好中球リンパ球比は悪性腫瘍手術における術後せん妄の予測に有用でしたが、本研究結果では有意差を認めず、良性疾患の脊椎手術の術後せん妄が悪性腫瘍と異なる機序で発症している可能性があると考えています。一方で術後せん妄においても、他の神経変性疾患同様に尿酸の抗酸化作用・神経保護の可能性を示唆しました。これまで術前の尿酸値と術後せん妄に関する報告はほとんどなく、麻酔科領域において新規性の高い報告ができたと考えております。

最後となりますが、本研究において尽力して下さいました指導医の木下裕貴先生、熊谷玄太郎先生をはじめ整形外科脊椎グループの先生方、および両講座の関係者の方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も臨床・研究ともに邁進していく所存です。



優秀演題賞を受賞

第148回日本医学放射線学会北日本地方会

大学院二年

笠井星良

（放射線診断学講座）

卒業二年目で、放射線診断学講座の笠井星良と申します。この度、第百四十八回日本医学放射線学会北日本地方会にて優秀演題賞を受賞しましたのでご報告致



します。発表演題は、「大規模コホート研究を用いた脳梁膨大部前方FLAIR高信号域の病態解析」です。脳MRIにおける脳梁膨大部前方FLAIR高信号域は、正常の高齢者でも見られるコモンな所見であり、病的意味は確立されていません。そこで今回我々は、大規模高齢者集団（いきいき検診）を対象に、脳梁膨大部前方FLAIR高信号域と血管リスク因子や認知機能、また各脳容積との関連性を調査しました。対象者は3T MRIを受けた二千百十人の検診参加者で、脳梁膨大部前方FLAIR高信号域は、視覚的に四段階のスケール（なし、軽度、中度、重

度）に分類しました。またVoxel based Morphometryという画像解析手法を活用して自動で、参加者の灰白質や白質、側脳室などの構造の容積を算出しました。ロジスティック回帰分析を行い、脳梁膨大部前方FLAIR高信号域と関連する因子を調べた結果、糖尿病が有意な予測因子であることがわかりました。また側脳室容積も脳梁膨大部前方FLAIR高信号域に相関する因子であることがわかりました。本研究は、糖尿病と脳梁膨大部前方FLAIR高信号域の関連を証明したはじめての大規模研究となります。また近年、アルツハイマー病で

は、脳脊髄液クリアランスの障害による脳室拡大傾向が報告されています。本研究の結果から、脳梁膨大部前方FLAIR高信号域に脳脊髄液クリアランスの障害が関与している可能性があるため、MCIの病態についての新たな指標となるかもしれません。今回の研究は、掛田教授をはじめとする多くの方々に多大なるご指導、ご助言をいただきました。また本研究は中路重之先生をはじめとする弘前大学健康未来イノベーション研究機構の先生方、脳神経病理学講座、脳神経内科学講座の先生方との共同研究となります。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。この賞を励みに、研究活動により一層精進して参りたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

Research forum 優秀演題賞を受賞

大学院二年 緑川 伸

（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座）



この度令和五年七月十五日、十六日に東北医科薬科大学で開催された第七十一回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東北地方部会連合学術講演会にて、Research forum 優秀演題賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。「頭頸部癌と糖尿病」という題で二〇一〇年から二〇二〇年に弘前大学医学部附属病院耳鼻咽喉科とその関連施設で治療を行った咽頭扁平上皮癌症例（四百八十五例）について調査し、糖尿病が頭頸部癌患者の予後に与える影響について発表して参りました。糖尿病は様々な癌の予後因子となることは周知の事実ですが、頭頸部癌は希少癌（鼻咽癌、口腔癌、咽頭癌、喉

頭癌、唾液腺癌）の集まりであり、個々の症例数が少ないために糖尿病と頭頸部癌の関連性についてはこれまで統計学的に十分な症例数を用いた研究が行われてきませんでした。今回私達は青森県内で頭頸部癌治療を担う主要病院三病院（弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院、八戸市立市民病院）の症例を集積することで、大規模なコホートでの検討を行うことができました。その結果咽頭扁平上皮癌症例においては治療法に関わらず、治療前のHbA1c値が六・五%以上

の症例において疾患特異的生存率が有意に増悪するということが判明しました。また特にウイルス関連咽頭癌（EBV関連上咽頭癌、HPV関連中咽頭癌）においてその傾向は顕著にみられました。この研究は糖尿病の罹患率と死亡率が高い青森県という地域だからこそ、行われるべき研究であり行う価値のある研究であると感じております。今後も弘前大学での頭頸部癌の研究を継続して行っていくように、少しでも皆様のお力になれるよう頑張っていきたいと思っています。最後になりましたが今回の発表にあたりご指導頂いた水上浩哉先生、工藤直美先生、松原篤先生に心より感謝を申し上げます。今回の受賞を糧に引き続き研鑽を積んで行きたいと思っています。

一般演題優秀演題賞を受賞して

大学院一年 三浦 峻

（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座）



この度、令和五年七月五日・一六日に東北医科薬科大学福室キャンパスで開催された第七十一回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東北地方部会連合学術講演会にて、一般演題の優秀演題賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。『当科でtrastuzumabを使用した唾液腺癌六例についての検討』という演題で分子標的薬であるtrastuzumabの治療成績や有害事象等について調査し報告しました。細胞膜表面に存在するタンパク質であるHER2受容体は、唾液腺癌や乳癌、胃癌などで過剰発現していることが知られています。trastuzumabは、HER2受容体に結合することで抗腫瘍効果を持ち、二〇一七年

耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東北地方部会連合学術講演会にて、一般演題の優秀演題賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。『当科でtrastuzumabを使用した唾液腺癌六例についての検討』という演題で分子標的薬であるtrastuzumabの治療成績や有害事象等について調査し報告しました。細胞膜表面に存在するタンパク質であるHER2受容体は、唾液腺癌や乳癌、胃癌などで過剰発現していることが知られています。trastuzumabは、HER2受容体に結合することで抗腫瘍効果を持ち、二〇一七年

から切除不能なHER2陽性再発転移唾液腺癌に対して適応が拡大されました。当科でもtrastuzumabを使用している症例が増えてきており、六例について治療成績や有害事象を後ろ向きに検討しました。その結果、HER2受容体を発現することの多い唾液腺導管癌において、奏効率は六十%、病勢制御率は百%と良好な成績がみられました。唾液腺癌の中でも唾液腺導管癌は、かつては予後の悪い組織型として知られておりましたが、trastuzumabの登場により予後の改善が見られるようになっており、本

研究のデータもtrastuzumabの有効性を示唆するものとなりました。期待される治療法として、今後さらなるデータの蓄積が求められます。当科でも今後も引き続き調査を行う予定です。私事ですが、今年入局したばかりの新人であり、最初の学会発表でした。どのように調査や発表の準備をすればよいか手探りの状態でしたが、工藤先生、松原教授をはじめとして、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の先輩方のご指導により形にすることができました。また、青森県立中央病院の長岐先生や、ご協力くださった関係者皆様へこの場を借りて感謝申し上げます。本賞の受賞を励みに、さらに日々の診療、研究について邁進する所存です。

ERS 2023 Sofia, Bulgaria Best poster 賞を受賞

（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座所属）

山口 大夢

この度、令和五年六月十八日（二十二日）にブルガリアの首都ソフィア（会場：National Palace of Culture）で開催されたERS2023において、Best poster 賞を受賞いたしましたので、報告致します。

『Effect of gut microbial composition and diversity on major inhaled allergen sensitization and onset of allergic rhinitis』という題で発表させていただきました。

腸内細菌叢の乱れはDysbiosisと呼ばれ、アレルギー性疾患をはじめとする様々な疾患を引き起こすことが知られており、腸内細菌叢研究は近年注目を集めている分野です。今

回、疫学調査（若木健康増進プロジェクト健診）により得られたデータを用いて、主要な吸入性抗原感作や鼻炎発症と腸内細菌叢構成・多様性との関連について検討を行いました。抗原感作群では未感作群と比較して腸内細菌叢におけるα多様性指数（個体内での均等性）が低下しており、さらに二群間でβ多様性（個体間での種類似性）が有意に異なっていました。この結果から、腸内細菌叢における多様性低下が主な吸入性抗原感作に影響を及ぼしていることが示唆されました。また細菌叢構成については、Bacteroidalesが感作

に促進的に影響し、一方で乳酸菌や酪酸産生菌に属する細菌が抗原感作に抑制的に関係していることが示唆されました。これらの発見はプロバイオティクスやシンバイオティクスといった腸内細菌への介入により、アレルギー疾患に対する新たな治療戦略への寄与に繋がる可能性があると考えられ、さらに本分野での今後の研究発展に注目していきたいと思っています。

初めての海外学会で口演発表ということもあり慣れない環境ではありましたが、松原教授にご指導いただきましたが、無事に発表を終えられたこと、またこのような賞をいただけたことに改めて感謝申し上げます。発表に際してご協力くださったすべての方に感謝しております。

今後臨床診療と合わせて研究や学会発表にも積極的に取り組みながら、自己研鑽を積んでいきたいと思っています。



第6回櫻井医学研究賞授賞式

医学研究科長 廣田 和美

櫻井記念医学研究賞は株式会社丸大サクラ井薬局からのご寄附を原資として平成二十九年度に設立されました。特別賞は一件三百万円以内、若手奨励賞は二件百万円以内としており、選考にあたっては、これまでの国際共同研究の実績だけでなく、今後の研究計画を審査し、受賞者には研究論文を成果として求めることにしております。

第六回となる今年度は四月に公募を開始し、特別賞には二名、若手奨励賞には一名の応募がありました。

研究推進委員会における厳正な選考の結果、特別賞には附属病院麻酔科斎藤淳一講師、研究課題が、「自己血輸血は免疫機能を抑制するか」に決定しました。

また、若手奨励賞には、医学研究科むつ下北地域医療学講座の藤田尚紀講師、研究課題が「敗血症性血管内皮グリコカリックス障害における新規ヒアルロニダーゼ（TNM2）の役割の検討」に決定しました。

令和五年九月十四日に医学研究科大会議室において、第六回櫻井記念医学研究賞授賞式が、櫻井清様、櫻井雅子様ご夫妻並びに福田眞作学長にもご列席いただき執り行われました。令和五年五月八日のCOVID-19も五類感染症となり、COVID-19禍が完全に収束したわけではありませんが、だいぶ対応が緩和されたこともあり、COVID-19禍前の式典にほぼ戻りました。授賞式では、医学研究科長挨拶の後、今回の受賞者に助成金が贈呈され、福田学長並びに櫻井社長よりお祝いのお言葉があり、続いて受賞者からは挨拶と受

賞対象となった研究に関する説明がなされました。最後に参加者全員で記念撮影を行い、式は終了致しました。

研究の継続には、アイデ

特別賞を受賞して

麻酔科 講師 斎藤 淳一

この度は第六回櫻井記念医学研究賞（特別賞）を賜り、丸大サクラ井薬局取締役会長櫻井清様、同顧問櫻井雅子様、関係者の皆様方に深く御礼申し上げます。

今回受賞いただきました研究テーマは「自己血輸血は免疫機能を抑制しうるか」です。希釈式自己血輸血は周術期の同種血輸血を回避・減少するため四十年

以上前から実施しており、当講座を象徴する自己血輸血となりました。当講座では婦人科手術をはじめとする開腹癌手術や頭頸部癌手術、脊椎側弯症手術などにおいて、同種血輸血を回避する効果を明らかにしてきました。われわれ麻酔科医の取り組みにより同種血輸血を回避できれば、同種血輸血によるアレルギー反応

や血液を介したウイルス感染、免疫機能への影響を小さくでき、手術患者の予後を改善できると考えています。

しかし、希釈式自己血輸血にもまだ明らかにされていない問題点がいくつも存在します。その一つに自己血輸血は自己免疫を修飾（抑制）しないのか、という疑問があります。同種血輸血が癌患者の予後を悪化させることはよく知られた事実ですが、その機序とされるのが同種血輸血による免疫修飾です。免疫修飾には白血球も関与することが知られており同種血輸血からは白血球が除去されるようになりまし。しかし全血である希釈式自己血輸血には当然白血球が含まれます。採取された血液バッグ内の環境はアシデミアであり、少なからず血液へストレス

血管内皮グリコカリックスは木の幹に相当するSyndecan-1などのコア蛋白、枝に相当するヘパラン硫酸などのグリコサミノグリカン、これらの最外層を覆っているヒアルロン酸から構成されており、血管内皮細胞の保護、炎症・凝固能の調節、血管透過性の調

を明らかにするために、英国留学でお世話になったProf. Maの研究室と協力し実施する予定です。この研究を進めることでより安全な希釈式自己血輸血の実施方法の検討につながることを期待できます。

今回いただきました研究費を有効活用し、本国際共同研究および本学の国際化に向けて取り組んで参ります。この度の受賞を心より感謝しております。誠にありがとうございます。

若手奨励賞を受賞して

むつ下北地域医療学講座 講師 藤田 尚紀

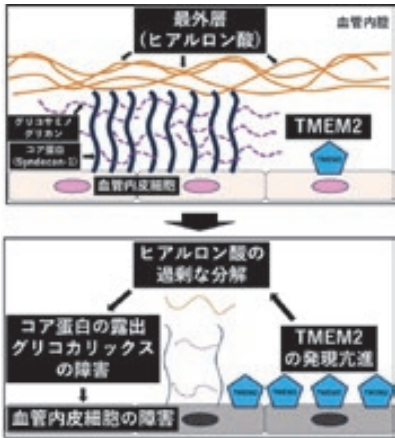
この度は第六回櫻井医学研究賞 若手奨励賞を頂戴し誠に光栄に存じます。櫻井様、選考委員の先生方に深く御礼申し上げます。今回受賞させていただきました研究テーマは『Role of transmembrane protein 2 in endothelial glyocalyx injury in sepsis（敗血症性血管内皮グリコカリックス障害における新規ヒアルロニダーゼTNM2の役割の検討）』です。これまで当講座の医局員が留学先としてお世話になっている米国Sanford Burnham Preby Medical Discovery Instituteとの国際共同研究になります。

血管内皮グリコカリックスは木の幹に相当するSyndecan-1などのコア蛋白、枝に相当するヘパラン硫酸などのグリコサミノグリカン、これらの最外層を覆っているヒアルロン酸から構成されており、血管内皮細胞の保護、炎症・凝固能の調節、血管透過性の調

（次ページへ続く）



（前ページより）
酸が過剰に分解されることでコア蛋白やグリコサミノグリカンが露出し惹起されるのではないかと仮説を立て本研究を立案しました（図）。ファージディスプレイ法を用いて作製済みである抗TMEM2モノクローナル抗体が治療候補になる可能性があり、また本研究は敗血症のみならず虚血再灌流障害などの急性疾患、糖尿病などの慢性疾患によ



る血管内皮障害のメカニズム解明や治療にも応用できる可能性があり、非常に意義のある研究だと思っております。

今回いただいた研究費を有効に活用し、国際共同研究および本学の国際化に役立ててまいります。改めまして受

賞に心から感謝申し上げます。

令和5年度 教育に関して優れた業績を上げた教員を受賞して

医学教育学講座 助教 野村 理

この度「教育に関して優れた業績を上げた教員」として表彰して頂き、大変光栄に思うとともに心から感謝申し上げます。昨年十月から新設された医学教育学講座の専任教員として勤務しておりますが、それ以前は救急・災害医学講座の助教として救急・災害医学の講義、医学英語（IV）の講義、研究室研修、クリニカル・

クラークシップ（クリクラ）I・IIなどを担当させて頂いておりました。その過程で医学教育に関連する国内外の学会賞を頂いたこと、医学教育関連の論文出版がなされたことを評価頂いたものと思っております。

二〇二〇年からのコロナ禍での高度救命センターのレッドゾーン診療と並行しての学生教育は思い出深いものがあります。三密回避など多くの制約の中で、救命センターの教員が限られた時間、資源、体力、気力の中で教育にエフォートを

割けるのかなどの悩みを救急医の仲間たちと議論していた気がします。もう限界かな、と思った時にコロナ禍前にクリクラIIで救命をローテしてくれ、卒業後に別地域で初期研修を開始した先生から頂いた「ワクチンなしでレッドゾーンで仕事をしています。弘大救命で勉強した呼吸器管理が役に立っています」のメールに涙ぐんでしまい、目の前の患者さんの診療も未来ある若者たちへの教育もベストを尽くそうと原点に立ち返ることができました。教員に救われるという教育の新たな、そして尊い側面を感じました。コロナ禍のZoomなどでの非同期教育であっても可能な限り細かくフィードバックを提供したり、対面での臨床実習が叶わない場合においても遠隔シミュレーション教育を実施したり、また、学術組織が公開しているYouTube教材を活用することで教員

がオンデマンド講義動画を作成する負担を軽減する試みなどを実施しました。これらの課題には世界中の医学部教員が同じ悩みを抱えているものと思ひ、医学教育研究としてその成果を国際誌に報告致しました。

さて、最近知った教育用語に「納得解」という言葉があります。国家試験問題のような唯一の正しい選択肢（絶対解）ではなく、答えが一つではない課題について自分を含めた皆が納得できる解を導き出す力を意味し、平成二十九年の文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」でも、「正解もなく、一人ひとりの幸せや価値観も異なるこれからの時代では、一部の人間だけでなく全員が考え、悩み、納得解を生み出していく」ことの重要性が述べられています。医学者と接していると、どうしても唯一の「正解」を求めているように、国家試験合格という目標に順応しようとしている結果だと理解しています。彼ら彼女らに、ChatGPTが

麻酔科 助教 中井 希紫子

この度は、「教育に関して優れた業績を上げた教員」として表彰をいただき、ありがとうございます。身に残る光栄と、心から感謝申し上げます。

私は、四年次の麻酔科学・緩和医療学の分野で「中枢神経系の評価と脳死判定」「開頭術の術中管理」「腹腔鏡手術及びロボット支援手術の周術期管理」について講義を行っております。臨床現場では手術室で手術麻酔に従事している一麻酔科医です。先日、とても嬉しいことがありました。五年生のクリクラIの学生さんと一緒にロボット支援手術の麻酔を担当した日のことです。質問を投げかけた私に対し、「それ、先生が講義で大事だと言っていたので、最近知った教育用語に「納得解」という言葉があります。国家試験問題のような唯一の正しい選択肢（絶対解）ではなく、答えが一つではない課題について自分を含めた皆が納得できる解を導き出す力を意味し、平成二十九年の文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」でも、「正解もなく、一人ひとりの幸せや価値観も異なるこれからの時代では、一部の人間だけでなく全員が考え、悩み、納得解を生み出していく」ことの重要性が述べられています。医学者と接していると、どうしても唯一の「正解」を求めているように、国家試験合格という目標に順応しようとしている結果だと理解しています。彼ら彼女らに、ChatGPTが

たことですよー」と学生さんが答えてくれたのです。その一言にとっても感動し、「来年も授業頑張るぞ」と心に誓った出来事でした。私は、学生時代決して優秀な学生ではありませんでしたが、真面目だったようで、授業はほとんど出席していました。その中で、今でもよく覚えている授業は、現在輸血・再生医学講座教授の玉井佳子先生が担当されていた、血液学の授業です。玉井先生の授業はとても明快で聞き心地が良く、授業の中で「これが大切ですよ」と明確に教えてくださったことを今でも思い出すことが出来ます。自分が学生さんに教える立場になり、大切なことを人に



伝えるためには、自分の内容を深く理解していないければならない、そしてその分野を自分がとても好きであれば知識だけではなく何か伝えることがあるのかもしれないと感じております。医学教育者としての自分に、大きな励ましを下さった玉井先生の授業に、心から感謝しております。

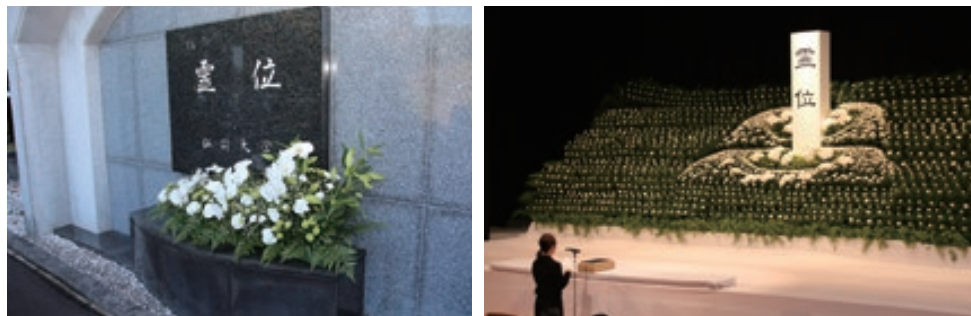
四年次の座学が、五年次の臨床実習につながり、現場でより深くより面白く医学を学んでいただけることが我々の本望です。

最後に、この賞にご推薦いただきましたことに、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。また、日々私に御指導下さる麻酔科学講座の先輩方、一緒に切磋琢磨して下さる同僚の皆様への支えと励ましに、心から感謝申し上げます。

令和5年度

弘前大学医学部 解剖体慰霊祭
生体構造医科学講座 教授 下田 浩

弘前大学医学部および同附属病院において系統解剖、病理解剖、ならびに法医学解剖のために御遺体を捧げられました御霊に対して用意を捧げるため、弘前大学医学部解剖体慰霊祭が令和五年十月三日午後一時三十分より弘前文化センター大ホールで挙行政されました。昨年度は弘前文化センターが改修中であつたために弘前市民会館での開催となりましたが、折しも新型コロナウイルス感染症拡大による活動制限が撤廃された空気に包まれました。まず初めに医学の教育と発展のために本学にご献体いただきました御霊三百三十六柱に対して参列者全員による黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。続いて、ご献体なされました方々（ご遺族のお許しが得られた方のみ）のご芳名が奉読されました。そして、廣田和美医学部長より祭詞が述べられましたのに引き続き、医学科二年生の阿部みなみさんが学生代表としてご献体いただきました御霊に対する深い感謝とご遺族への厚い御礼の意が込められた弔辞を捧げました。その後、廣田医学部長、袴田健一附属病院長、齋藤陽子保健学科長、福田眞作学長、医学科二年生の今井裕弥さん、保健学科三年生の芳野歩未さん、千葉正司白菊会理事長による代表献花が行われ、袴田附属病院長よりご参列いただきました方々へ御礼の言葉が述べられました。最後に、参列者



（次ページへ続く）

（前ページより）
全員で献花を行い、慰霊祭は滞りなく終了いたしました。

慰霊祭終了後に、医学部教職員はご遺族ならびに白菊会員の方々とともに弘前市墓地公園にある弘前大学慰霊施設に参拝し、長期納骨施設に献花者名簿を納めました。その後、黙祷を捧げ、医学部長による代表献花を行いました。その後、同埋



弘前大学慰霊施設に参拝し、長期納骨施設に献花者名簿を納めました。

秋季学位記授与式

医学研究科長 廣田 和美

令和5年度弘前大学及び弘前大学大学院秋季学位記授与式が、令和5年9月二十九日（金）午前10時30分から、弘前大学創立五十周年記念会館岩木ホールにおいて



令和5年度弘前大学及び弘前大学大学院秋季学位記授与式

骨施設にて黙祷と医学部長、白菊会理事長、続いて参列者による献花を行いました。最後に筆者よりご参列頂きました方々に御礼のご挨拶を述べさせて頂いた後、参拝式は無事終了いたしました。

当日はさわやかな風が吹く晴天に恵まれ、コロナ禍以前と同じかたちで式典を執り行うことができましたことにただひたすら感謝を感じた一日でした。

出される論文はすべて査読制のある雑誌に採択されていることが義務づけられた結果、なかなか論文が採択されず、四年生として留年する学生が増加したことです。もう一つの理由は、修業年限短縮制度を用いて修了する学生が増えていることです。医学研究科では、優れた研究業績を上げた学生については、三年あるいは三年半で修了することができ、修了年限短縮制度を設けています。従って、春季入学で半年早く修了する学生と秋季入学で一年早く修了する学生は、秋季学位記授与式で学位を授与されることとなります。今年度の医学研究科の秋季修了生は甲が十五名（論文提出による乙一名）でしたが、その内五名は修業年限短縮が認められて修了された方でした。論文の質を評価することは非常に難しいことですが、今回の修了生の学位論文は何れも素晴らしい内容でした。

て行われ、五十一名に学位が授与されました。秋季学位授与者の内訳は、学士学位授与者二十一名、修士学位授与者六名、博士学位授与者二十四名（この内、医学研究科は博士学位授与者十六名）でした。福田眞作学長より、学部卒業生および大学院修了者に学位記が授与された後、告辞が述べられました。

医学研究科では秋季学位授与者が毎年コンスタントに出ています。これは以下の二つの理由が挙げられます。一つ目は、四年の修業年限内に修了できる学生が減少したことです。大学院が部局化された平成十九年度から、学位論文として提

令和5年度弘前大学医学部 医学科スクーリングを開催して

入試専門委員長 上野 伸哉
（脳神経生理学講座 教授）

令和5年8月7日（日）一三時から医学部基礎大講堂において弘前大学医学部医学科スクーリングを開催いたしました。今年の夏は全国的に異常な暑さに見舞われ、八月十日には弘前も観測史上第一位の三九・三度を記録しました。連日の暑さにも関わらず、当日は多くの参加者が集まり、エアコンをフル稼働させながら以下のプログラムで進行しました。弘前大学医学部医学科P R動画（<https://www.med.hirosaki-u.ac.jp/web/movie.html>）を視聴、(1)医学部長 廣田先生より「弘前大学医学部の歩みとこれから」、(2)学務委員長 鬼島先生より「弘前大学医学部医学科の国際認証を踏まえた教育」、(3)入試専門委員



長 上野より「弘前大学総合型選抜入試の概要」について講義を行った後、(4)青森県健康福祉部より「弘前大学医師修学資金支援制度について」を紹介いただきました。

このスクーリングは総合型選抜入試の出願予定者が主な対象で、青森県を中心とした東北六県および北海道出身の方が参加しています。例年約百名程度で推移してありますが、今年も九十八名の参加がありました。医学部医学科の総合型選抜入試の募集はすべて地域枠となっており、「青森県内枠」および「北海道・東北枠」があります。「青森県内枠」の要件は、①入学者は「青森県弘前大学医師修学資金」の貸与を受けること。②卒業後直ちに「青森県のキャリア形成プログラム」にしたがって臨床研修を含む九年間（内四年間は医師の不足している地域）医療に従事すること。この二つを遵守することとなります。一方、「北海道・東北枠」は②のみが要件となっています。この地域枠での入学者は、卒業後は青森県内の研修医となり、さらには青森県の医療を支える人材となることを期待されています。

猛暑のなか、スクーリングにご協力いただいた青森県健康福祉部、大学教員及び事務の方々に深く感謝いたします。

中学生と医師との 交流プログラム

学務委員長 鬼島 宏
（医学教育学講座 教授）

将来医療職を目指す中学生を対象とした「医師との交流プログラム」が、令和5年8月9日に開催されました。平成二十六年から開始されたこの事業は、弘前市教育委員会が主催し、医学研究科が共催となっており、今年でちょうど十年目となります。弘前市内の五中学校から十二名の中学生が参加しました。

医学研究科長と教育委員会・教育長の挨拶後の実際のプログラムは、午前の「医学生との交流」、「医療現場視察」、午後の「医師との交流・意見交換」の三部構成となっています。医学科生五名（四年次・六年次）との交流では、和やかな雰囲気の中でアイスブレイクや意見交換・質問が行われました。その後は、医療器具を用いて血圧測定・瞳孔反射・腱反射を体験し、シミュレーターを使って身体所見を取る実習なども行いました。医療現場視察は、附属病院病理部で行われまし



た。参加した中学生の皆さんは、医療用ガウン・医療用手袋を身につけると多少緊張感が漂いましたが、臆することなく実際の病理標本（脳・心臓など）を手に取りながら、病気の本態や医療についての理解を深めました。昼食後は、附属病院で活躍している斎藤敦志教授（脳神経外科）・対馬史泰医師（放射線診断科）との交流が行われました。中学生からは様々な質問があり、それに対して医師として自らの体験意見をもとに、大変さもあるがやりがいや喜びが大きい旨を語られていました。

中学生にとっては普段体

令和5年度弘前大学大学院 医学研究科公開講座 「種々のアレルギー性疾患：その病態と治療」

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 松原 篤

令和5年9月8日の十八時から二時間に渡って、弘前大学医学部講義棟にて「種々のアレルギー性疾患：その病態と治療」と題した公開講座が、四十二名の市民の方を迎えて開催されました。新型コロナウイルスの流行により、予定が伸び伸びとなっていました。コロナが五類となったこともあり対面にて久しぶりの現地開催となりました。

講演一として、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の松原が「腸内細菌はアレルギー



験できない附属病院での医療現場を視察できたことに加えて、現役の医学生や医師から直接話が聞けたことは有意義であったに違いありません。中学生の皆さんの瞳がとても輝いていました。参加者の中から将来、医療・医学を担う人材が出てくることを大いに期待いたします。

ギーと関係するか？」のタイトルで、アレルギーの基本的な話題から、アレルギー性鼻炎発症のメカニズム、近年になり花粉症患者が増加している疫学調査の話、さらにはメインテーマである腸内細菌とアレルギーの関係や乳酸菌やビフィズス菌摂取によるアレルギー治療（プロバイオティクス）などについて幅広く解説しました。講演二のテーマは、臨床検査医学講座／呼吸器学講座の糸賀（次ページへ続く）

（前ページより）
正道先生の「気管支喘息と好酸球」です。喘息による死亡者数は、ここ二十年で減り続けているけれども、未だに年間千人程度が亡くなっているとのショッキングな話題から始まり、喘息の病態や治療、性ホルモンであるエストロゲンが気道炎症に関与するかもしれないなど、かなり高度な内容を判り易くユーモアも交え



ながらご講演頂きました。講演三は、皮膚科学講座の赤坂英二郎先生の「教えてーなるほどーここまで進んだアトピー性皮膚炎の治療」のお話です。沢山の皮膚の写真を供覧しながら、乳児から成人まで多くの方が悩んでいるアトピー性皮膚炎の病態や治療について、従来のステロイド軟膏だけでなく、JAK阻害薬の外用剤や抗体製剤の注射



薬など最新の治療について判り易く解説頂きました。なかでも顔面の重症アトピー性皮膚炎によるかゆみが原因で網膜剥離をきたした症例は驚きの一言で、皮膚科医による正しい治療が重要であることを改めて認識させてもらいました。

講演終了後には、活発なQ&Aが行われアンケートにも記載して頂きました。アンケートでは、「興味深い内容ばかりで、とてもおもしろく勉強になりました。」「医療の進歩はすごいなあと思いました。」「などの好意的な声が多く寄せられ、ご来場の多くの方にご満足頂けたと考えています。今回の公開講座が、アレルギー性疾患の病態や治療について正しい知識を得る一助になったのであれば幸いです。

【開催報告】 令和5年度弘前大学大学院医学研究科「健康・医療講演会」 「アレルギーの最近の話題について知ろう」

広報副委員長 掛田 伸吾
（放射線診断学講座）

令和五年十月二十八日に、弘前大学大学院医学研究科「健康・医療講演会」が、「アレルギーの最近の話題について知ろう」とのテーマで三沢市の「さざん三沢」にて開催されました。会場には三十八名の方々に参加いただきました。講演会に先立ち、三沢市立三沢病院事業管理者伊藤悦朗先生がご挨拶され、近年の増加するアレルギー

ギー疾患について、最新の正しい知識を持つことの重要性について話されました。今回の講師は、三沢市立三沢病院小児科 鈴木友希先生と弘前大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座・教授 松原篤先生でした。

鈴木先生は、「食物アレルギーを正しく知るー最近の話題も含めてー」と題し、多様化している食物ア



（左から）掛田伸吾教授、松原篤教授、鈴木友希医師、伊藤悦朗事業管理者

レルギーの発症メカニズム、感染経路、症状について、実際の症例を教材に解説されました。なかでもクレンジミヤカシユナツツ等による木の実アレルギーが、小児期で増加している点を強調されました。講演の最後にアナフィラキシーの初期対応で用いられるエピペ

トピックのひとつであるアレルギーにおける腸内環境の重要性については、腸内環境改善のカギとなるシンバイオティクス（善玉菌を食べることで、腸で育てることの両方を行うこと）というアプローチを紹介され、善玉菌を腸で育てるプレバイオティクスの重要性について解説されました。特に先生が調査された岩木健康増進プロジェクトのデータは興味深



会場の様子

文部科学省 「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」に採択されて

腫瘍内科学講座 教授 佐藤 温

文部科学省令和五年度大学教育再生戦略推進費「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」に東北大学（主幹）、秋田大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学、弘前大学の六大学が連携して申請した「東北広域次世代がんプロ養成プラン」（以下、本事業）がこの度採択されました。これまでの弘前大学におけるがんプロフェッショナル養成事業は、平成十九年度より東北三県四大学、平成二十四年度より連続二



いものでした。最後には、水溶性食物繊維を多く含んだ松原家の秘伝メニューもご披露いただきました会場は大変盛り上がりしました。質疑応答では、参加者の方々の理解が深まる、講師や司会の間での活発なやり取りがありました。

今回の講演会では、子育て世代の女性の参加者が多く、なかには教育関係の方

し、がん医療提供体制を支える基盤として東北各県のがん対策に寄与していきたいです。実践の場所を大学間で補完し合い、実効性を伴う教育体制を整備するとともに、患者（団体）・行政とも連携して新ニーズに対応する人材を育成することを目標としております。各大学の特色に応じたがん専門医療職育成の教育コースを立ち上げ、すべての講義（約九十講義）はeラーニングで受講することができ、学生・研修医向けの各種セミナー・シンポジウム開催等、各大学が協働して新たなニーズに応じた人材を育成します。本学では教育コースとして、大学院コース「地域がん医療次世代リーダー育成コース」「地域がん医療を推進する次世代病理診断医育成コース」「地域がん医療を推進する次世代放射線治療医育成コース」では、がん医療の現場において、緩和的放射線治療から高精度放射線治療さらに核医学治療や小線源治療も含めた質の高い専門医療を個々の患者さんの病態に応じて提供することができ、かつ地域がん診療拠点病院において中心的役割を担うことができる医師を養成すべき人材像としています。

医療の取り組みむべき課題を抽出し、地域のリソース、需要を受け入れ、多職種連携によるチーム医療のネットワークを構築する等、次世代のがんに関わる医療人を育成することができる人材の養成を目標とします。『地域がん医療を推進する次世代病理診断医育成コース』では、がん医療に携わる専門医として、正確な診断、治療選択の上で重要な様々な組織情報の提供、そして新規治療法や治療薬による効果判定や副作用の解明等が実践できるような、遺伝子をはじめとする様々な分子病理学的解析を実践し、臨床現場に積極的に還元できる次世代の病理医を養成します。『地域がん医療を推進する次世代放射線治療医育成コース』では、がん医療の現場において、緩和的放射線治療から高精度放射線治療さらに核医学治療や小線源治療も含めた質の高い専門医療を個々の患者さんの病態に応じて提供することができ、かつ地域がん診療拠点病院において中心的役割を担うことができる医師を養成すべき人材像としています。

地域格差に加え急速ながん医療の高度化に伴い、医療現場で顕在化した課題やがん予防の推進、新たな治療法の開発等の課題が浮上してきたことから、がん医療の新たなニーズに対応できる医療人養成が急務となっています。がん医療現場では様々な領域で人材不足が生じています。地域医療から最新治療まで、がん医療につながる多様な人材の参画を期待しております。是非、興味をもって頂きたいと思っております。詳しくはホームページをご参照下さい。

学生だより

学生だより ハワイ大学夏季研修

「ハワイ大学夏季研修」

医学科五年 伊東 なつみ

今回、HCCBPという実習があるを知った一年生の頃から、是非参加したいと思っていたプログラムに初めて参加させていただきました。運営に携わって下さった先生方、スタッフの方々の、私たち生徒を思いやる気持ちに感動と感謝の気持ちでいっぱいの実習期間でした。

今回、HCCBPという実習があるを知った一年生の頃から、是非参加したいと思っていたプログラムに初めて参加させていただきました。運営に携わって下さった先生方、スタッフの方々の、私たち生徒を思いやる気持ちに感動と感謝の気持ちでいっぱいの実習期間でした。

ハワイ大学夏期研修を通して

医学科五年 藤田 爽佳

私はHCCBPというハワイ大学での五日間の研修と三日間の病院見学のプログラムに参加させていただきました。将来世界に出ることに興味があったため、医学英語を学び実際に使う場面があることに魅力を感じ応募しました。研修では、ハワイ大学の医学生とのPBL式の症例検討や模擬患者さんとの禁煙外来、いくつかの病院見学を通して、アメリカと日本の医療や医学教育の違いを学んだり、新たな視点に触れたりすることができました。中でも印象に残っていることは、「アメリカにいれば、日本語ができることは一つの強みになる」というハワイで開業している日本人医師の言葉です。英語が第一言語でないことを消極的に捉えるのではなく、外国にいる日本人だからこそできる医

療をしていることに感謝を受けました。英語診療が不安な日本人も自宅でのケアや処方薬の説明を日本語で受けられるため安心感が得られ、外国人の中には日本は治安がよいという文化的背景から家族も安心して受診できると話す方もいます。自分の強みを知り、その地で何を活かせるかを考えながら医師として成長していきたいと強く感じました。最後に、このような貴重な経験をさせていただき心から感謝しております。ありがとうございました。



ハワイ大学式医学教育を体験

医学科五年 関 美 齡

夏季休暇中の八月二十一日から二十五日まで、ハワイ大学夏季研修に参加させていただきました。本研修は米国の医学教育を体験することを主旨として米国外の医学生向けに開催されており、実際の内容としては、注射や挿管、気管支鏡などの手技体験、医療面接、身体診察、小児救急、心肺蘇生の実習、PBL、文化体験などが盛り込まれていました。

医療面接実習でした。この実習では、実際の診察室を模した部屋で、模擬患者一名に対して学生一名が八分間で問診や身体診察を行います。診察の様子は録画され、各学生の診察の様子を医師が映像を見て採点し、評価表でフィードバックが行われました。また、診察はやりっぱなしではなく、ピックアップされた数名の学生の診察ビデオを全員で視聴し、良い点や改善すべき点を共有し合うところま



が整備されていることは、医学生各人の診察技術を効率的・合理的に向上させる、さらに個人の努力や臨床現場での指導や巡り合わせに頼りすぎることなく、一定の診察能力を得られるといった利点があると思います。この経験を通じて、国は異なっても医療行為の本質として共通する部分や、国や地域によ

であり、その指導の入念さに驚きました。米国ではこのように模擬患者と行う実習が頻回にあるとのこと、日本の医学教育との違いの一部を体験でき、貴重な機会となりました。臨床現場で本物の患者を診察する前に、模擬患者と十分に練習し、客観的なフィードバックを受け、改善点を把握・意識しながら基本の型を身につけられるシステム

本研修での経験はきっと今後の自分のキャリアのどこかで役立つだろうと考えています。四年ぶりの派遣再開に尽力してくださった全ての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

ハワイ大学研修に参加して

医学科四年 佐藤 宗二郎



気管挿管の練習

初めてのハワイでしたが、到着して思ったのは、意外と涼しいということでした。四十℃に迫る弘前よりもハワイの方が緯度的には暑そうですが、海に囲まれているからなのか三十℃にいかないくらいで、とても過ごしやすかったです。研修では、PBL、医療面接、注射体験、聴診器・喉頭鏡の模擬練習などを行いました。もちろんすべて英語で、それはそれで大変だったのですが、日本で学んだ知識(当たり前ですが)がちゃんと通じたこ



ハワイの海

とが嬉しかったです。やはりscienceとしての医学は世界共通なのだ実感しました。また、病院を見学する機会もいただきました。先生方からお話を聞きました。多くのアメリカの病院では、主治医制ではなくオンコール制で、時間外に呼び出しがかかることがないそうです。この患者さんへの対応は、医師の責任が担当する、ではなく、この時間帯は医師が担当する、という考え方があり、医師の働き方に配慮されたやり方だと思いました。ハワイに行ったことで日本の医療のあり方を相対的に捉えることができ、勉強になりました。今後も機会があればどんな海外に行きたいと思っています。広い視野を持って目の前のやるべきことに向き合っていきたいと思います。最後に、ハワイの海は本当にきれいで、十年ぶりに泳ぎました。

ハワイで医学を学ぶ

医学科三年 安藤 舞佳

私は八月中旬から下旬にかけて、ハワイ大学で行われた夏季研修に参加させていただきました。この研修はひとこと言うとう、「驚きと発見の連続の日々」でした。日本と米国の文化や医学教育、医療の違いはとも興味深く、多くのことを学びました。最も印象に残っているのは、南国の太陽光が溢れるキャンパスで、生徒たちが真剣であり

ながらも活気に溢れ、医学という学問を楽しんでいるかのように見受けられたことです。医師への道のりに対して、知識の習得は重要ですが、学生のうちだからこそできる、医学を楽しむ姿勢もまた重要であること、を現地の大学生との交流の中で学びました。また、研修の一環として行った医療面接を通じて、「挑戦する」という気持ちは何よりも大切であることを学びました。日本人はよく完璧な英語を求めがちですが、完璧な英語よりも大切なことは、患者さんとのコミュニケーションであり、このことが円滑な医療への鍵を握っていることを学びました。



(次ページへ続く)

(前ページより)
最後に、今回の海外研修において多大なご尽力をいただいた弘前大学に深く感謝申し上げます。そして、今回の経験を今後の学生生活に活かし、さらなる成長を遂げたいと思います。

ハワイ大学留学を終えて

医学科三年 大塚 理子

今回JABSONにて夏季研修に参加させて頂きました。小さい頃海外に住んでいたことがあり、自分の英語力を試したい、アメリカの医療に触れてみたいという思いで参加を決めました。大学入学前よりこのプログラムを知っていたため、参加が決定して本当に楽しみにしていました。

HMEPでは英語での講義、PBL、身体診察、シミュレーションなどを行い、日本とは違った形で医学を学ぶことができました。



たり、病院見学などをして充実した日々を送ることができました。大きな夢を持たないまま今まで過ごしてきましたが、この留学を通してハードかもしれないけど挑戦してみたい夢を持つことができました。最後になりましたが、この夢を持つ機会を与えてくださった関係者の皆様、家族、出会えた友達に心より感謝申し上げます。

ハワイ大学夏季研修に参加して

医学科三年 小島 未穂

私は今年の夏、ハワイ大学夏季研修とHCPPに参加しました。ハワイ大学ではアメリカ式の医療面接・身体診察の流れを講義や実



際に学生同士で注射を行う実習なども現地の学生とともに行いました。アメリカ式の医学教育はPBLをはじめとした参加型の教育や、心音や呼吸音、脈拍などが実際に感じられる高機能のマネキンやシミュレーターを用いた体験型の教育が多く、自主的な学びがより求められる環境であるこ

ハワイ大学夏季研修に参加して

医学科五年 河田 沙弥佳

この度、ハワイ大学医学部での夏季研修に参加させて頂いたいただきました。私は一年次のハワイ大学のプログラムに参加予定だったので、新型コロナウイルスの影響で渡航直前に中止となってしまう、そのリベンジの気持ちで臨みました。ただ、これまで経験した海外研修は英語力向上を目的としたものが多かったため、今回の英語を使って医



また、注射を打ち合ったりシミュレーターを用いた実習などで、実践的な形式で学ぶ楽しさを感じました。研修を通して新しい出会いや、英語はもちろん医学に対するモチベーションが高まったことが、今回の大きな収穫だと思っています。そして、今後も可能性を広げられるようなチャン

スを逃さないように、やらぬ後悔よりやる後悔という気持ちを持ち続けたいです。感謝申し上げます。

ハワイ大学医学部ワークショップに参加して

医学科三年 加賀沢 凜

私は8/21〜8/25に開催されたハワイ大学医学部ワークショップに参加しました。今回、WSに参加して一番感じたことは、学習環境の良さです。キャンパスには学生の使用できる個室やPBLをする部屋、自由に食べれるお菓子コーナーなど、学生が自主的に勉強するための設備が整っていました。実際、医学生は午前中に授業が終わった後、それらの部屋で一日に



現場で学んでいくという点です。これらの環境のもとで学ぶハワイ大学の医学生は自身の医学知識にとっても自信を持っていて、私自身、今までの学習態度を見直すきっかけとなりました。今回の体験は私にとって何ものにも代え難い貴重な経験になりました。このような体験を実現するために準備してくださった関係者、弘前大学の金銭的な支援に感謝しています。

学生だより 米軍三沢病院夏季研修

米軍三沢病院研修で学んだこと

医学科五年 石井 美風

三沢での研修は、青森県にいながら英語での病院実

た。私は今回三沢研修に行って本当に良かったと感じています。そのように感じた一番の理由は、自分の英語でのコミュニケーション能力の未熟さに気づけたからです。

今までは英語が好きで勉強も楽しんでおり、得意に思っていました。しかし、初めて英語しか通じない環境に身を置いた時、簡単なことも瞬時に思いつけませんでした。また文法を間違えることが怖く、最初はあまり話せませんでした。一週間三沢で過ごした後は、間違えようとも、簡単な英語でもよいから伝えようとするのが大事だということ

と、相手は理解しようとしてくれており自分が思っているよりも言いたいことが伝わりやすくなりました。さらに後でどのように言うべきであったかを調べ、次の機会に使うことで自分のものにできました。

米軍三沢病院夏季研修

医学科五年 鈴木 慈乃

夏休み中の五日間、米軍三沢病院で夏期研修をさせていただきました。私は留学経験がなく、英会話力に全く自信はありませんでしたが、以前から海外に興味がありアメリカの生活や医療現場を体験してみたいと思っていたため、今回このような貴重な機会をいただくことができました。私は病院では、小児科、産婦人科、内科、救急科を見学させていただきました。メディカルスタッフの



（前ページより）
料理やスタッフの方々が普段食しているハンバーガーやタコス、ベーグルなど異国の食事をいただくことができました。

短い期間ではありましたが、アメリカの医療を学び、アメリカの生活を十分に満喫できました。お世話になった全ての方々、本当にありがとうございました。

『小さなアメリカ』の日常

医学科五年 林 玲奈

三沢駅から車で十分ほど揺られると、景色ががらっと変わり、そこには「小さなアメリカ」が広がっていました。幼少期にシットコムやアニメで見たような魅力的な文明にこんなにもすぐアクセスできることに感動しました。

て大国の医療を支えているのかを実感しました。また、家族の予定で会議が中止されたり、授乳中のDrが搾乳休憩をとっていたりとフレキシブルな働き方とても新鮮に映りました。

幼少期から抱いていた海外で働くことに対する興味に加え、アメリカの高校でJROTC（予備役将校訓練課程）という授業を受け軍隊に興味を持ったことをきっかけとして、今回の研修に参加しました。

大きな成長がみられました。私にとって、英語は、キャリアのために身につけるべきスキルなどではなく、自分の大好きな文化へより多くの扉を開いてくれる魔法のような存在であり続けてきました。特に国際的繋がりが希薄であったパ

米軍病院の中で特に印象に残ったのは、分担された業務形式と勤務環境の良さです。アメリカではDrとNsの他に、Drの補佐をするPAや一定の診断ができるNsのNPなどの存在があり、コメディカル同士がどう機能し

そこでは時間をかけて得た学びは、今回の経験をより有意義で思い出深いものにしてくれました。ホストファミリーと夜中まで話して寝不足になったり、休日にゴルフに出かけて延泊させてもらったりと充実した時間を過ごせました。今でもホストファミリーとはお互いを訪ね合ったりフェイスタイムをしたりして交流しています。素晴らしい出会いと発見に恵まれた一週間でした。私の思い出を特別なものにして下さった全ての方々に感謝の気持ちで一杯



三沢米軍病院夏期研修に参加して

医学科六年 坂本 香琳

八月二十八日から九月一日の五日間、三沢米軍病院で実習させていただきました。実習した科は、救急科、産婦人科、外科、内科、小児科です。この実習を通して、日本とアメリカの医療現場の様々な違いに触れました。外科では実際に手術に入り、術中の雰囲気や医療スタッフ間のコミュニケーションのの違いを感じました。また、内科や小児科での外来診療では医師が患者教育を行い患者さんが自発的に質問をし、患者参加型の医療が行われていることを実感しました。三沢滞在中、産婦人科医師のDr. Miesnescuのお宅でホームステイさせていただきました。私の英語は拙いものでしたが、暖かく受け入れ

てくださり多くの会話を楽しむことができました。実習以外の時間には、ホストファミリーと一緒にアメリカ人の方が経営するレストランに行ったり、買い物に行ったり、ホームパーティーに参加したりし、充実した日々を過ごしました。私は将来の留学のためにアメリカの医療現場の様子を知りたいと思いこのプログラムに応募しました。今回の実習を通して、多くのことを学んだと同時に沢山の課題も見つかりました。この貴重な経験を活かし、今後医学や語学の学習に精進していきます。最後に、この素晴らしい機会をくださったすべての関係者の皆様に感謝申し上げます。

米軍三沢病院での実習を通して

医学科五年 藤田 健瑛

私は米軍三沢病院での実習に一週間参加させていただきました。問診をとったり、手技を見学したりと、もし参加しなかったら経験できないような体験をしま

した。また、ホストファミリーとも良い関係を築けました。なによりも、普段と



違う環境で、自分を見つめなおす機会になったように思います。

私が夏季研修に応募した理由は、英語で仕事をするとはどういったものなのか知りたかったからです。大学に入ってから、二回の語学留学を経験し、お金とパスポートがあれば、生きてはいけるという実感を得ました。しかし、海外で働くとなると、必要な力が違ってくると思います。実際研修してみると、海外で働くというのは苦労が多いだろうと思います。まず、言語の壁、文化の壁がありま

す。次に、医学の知識体系も日本と若干異なると思います。最後に、一番大切な人間性。海外に行って英語を話しても、自分は自分で。足りないものを痛感した一方で、熱意があればやっていけるだろうとも思いました。“The most important thing in my life is to decide what you want to do as soon as possible.”とホストファミリーは言いました。医学部の残り一年ちよつとは、自分が何をやりたいのか、考え、自己研鑽していきたいです。

違いを肌で感じて

医学科五年 山本 彩

三沢市内から基地内に一歩足を踏み入れると、そこは全てがアメリカでした。道路・標識・店・人：まる

でアメリカへ瞬間移動した気分でした。私のホームステイ先は内科医の先生宅で、夕飯を食べながら、ア

アメリカの医学部・医療制度・キャリアのことなど様々なお話を伺いました。日本にいたがらアメリカ人医師のお話を聞ける機会はないので、非常に貴重な時間でした。実習では小児科・UCC・婦人科・内科・精神科を回らせてもらいました。UCCとは、命の危険が迫るERとは異なり、緊急を要するが命を脅かすほどの重症ではない場合に行く所です。日本であれば患者が判断した科を受診しますが、UCCでは科を問わず幅広く診るためFamily Medicineが浸透しているアメリカならではのシステムだと感じました。精神科では、軍人ならではの症例を見学させて頂きました。Nurse practitionerの

方がカウンセリングから処方までされていたのも日本と異なり印象的でした。そしてどの科でも、患者・医師・スタッフが互いに冗談を言い合ったりしていて、フラットな関係が素敵でした。最後に、様々な手配をして下さった米軍三沢病院関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



写真コラム(22) 大学病院前・門前薬局

脳血管病態学講座 教授 今泉 忠 淳

病院やクリニックの目の前、あるいは、すぐ近隣にある調剤薬局のことを「門前薬局」と呼んでいます。大きな病院の前には、門前薬局が何軒もある、という



【写真1】2022年。

風景はよく見かけますし、弘前大学医学部附属病院の門前【写真1】もその通りです。門前薬局が並ぶようになったのは平成時代の2000年頃からかと思いますが、当時の厚生省が、医師と薬剤師の役割分担である医薬分業を強く推進するという方針を採ったためらしいです。薬の取り違えが減り、薬剤師による処方ダブルチェックや服薬指導が行える、という利点があります。一方、雪、雨、風、真夏の炎天下など、門前であっても行くのが大変な時もあります。同じことを2回説明しなくてはならないし、会計も2回しなくてはならないのも面倒くさいです。昭和時代には、薬は院内の薬局で調剤されるのが普通で、門前薬局というものはあまりなく、弘前大学医学部附属病院の門前には、理容所、クリーニング店【写真2】、市場、食堂、喫茶店、居酒屋などがありました。



【写真2】1990年。

学生
だより
台湾マツケイ病院夏季研修

馬偕記念病院での実習を終えて

医学科六年 高橋 諒

私は七月三十日～八月二十六日の約一か月間、台湾の馬偕記念病院で実習をさせて頂きました。

最初の二週間は、泌尿器科で実習を行いました。実習は外来と手術の見学が主で、外来見学では自分のタレットでカルテを閲覧し、先生とディスカッションをしながら外来を見学しました。カルテは中国語ではなく英語で記載されていたため、理解することが出来ました。手術見学では、B・Vierの腎部分切除やTURPなどを見ることが出

来ました。後半の二週間は、精神科を回りました。実習内容は、外来の見学や病棟患者との交流、精神疾患に関するレクチャーでした。レクチャーでは、台湾の精神医学の歴史や、中毒、老年期のうつ病など様々な内容を学びました。留学生三人に

台湾マツケイ病院夏季研修

医学科六年 森 島 彩 華

私は一か月間台湾のマツケイ病院で実習をさせて頂きました。このプログラムに応募したのは、中国語で診療を行えるようになりたいと考えたからです。私は母が台湾出身で、日常生活で使うような中国語は元々話すことができたのですが、病院で使う単語については馴染みがありませんでした。今回の実習では、医療に関する単語を一つでも多く学び、台湾や中国から来た患者さんに中国語で医学について説明できるようにすることを目標にしようと考えました。

台湾では、循環器内科と

小児科で実習をしました。病棟や外来、カテーテル治療など様々なことを学び、中国語の医療単語もたくさん教えて頂きました。また、客家人というかつて中国大陸から移住してきた民族にはG6PD欠損症が多いことを教えて頂きました。日本で医学を学ぶ時は日本人に多い疾患を学び、診療の際も日本人に多い疾患を先に想定すると思います。が、民族が違えば想定する疾患も異なってくると改めて思いました。日本で外国人の診療にあたる際は、このようなことも考慮する必要があると学びました。



馬偕医科大学の6年生達と台湾の頭城にて

「中国語学習の成果は国際学会で」

医学科六年 金野 隆 充

私は八月二十一日から九月十五日の二週間、台湾のMackay Memorial Hospitalで研修を行いました。まずは素晴らしい機会を与えてくださった弘前大学とMackay Memorial Hospitalの皆様に感謝申し上げます。

私は将来国際舞台でも活躍出来る医師になるため、入学以来このような機会に参加する中で、同じアジア出身の医師が米軍基地で活躍する姿を見てさらに刺激を受け、他国の医学教育に実際に触れたいと思い、医学生として異国で過ごす一ヶ月を非常に楽しみにしておりました。

私は小児科と循環器内科で、五年生と一緒に学ばせていただきました。驚いたのは、彼らの最初の実習と思えないほど堂々とした姿、学びへの積極性、そし

台湾での臨床実習で学んだこと

医学科六年 廣 瀬 麻 衣

私は八月二十日から一か月間を台湾Mackay Memorial Hospitalで臨床実習を行いました。台北へと移動した実習前日の飛行機の中では緊張や不安の方が大きかったですが、振り返ればもう一度同じ経験をしたいくらい、私にとって忘れがたい経験となりました。

臨床実習の最初の二週間は精神科で、後半の二週間は呼吸器内科で実習を行いました。台湾の精神医学史の理解から始まり、精神薬



て言語能力でした。私がいることで急に先生の指導や、学生のプレゼンが英語になっても、自然に対応し、中国語の講義を隣で通訳もしてくれました。それもそのはず、彼らは医学を英語で学び、カルテも英語で記載しているのです。当たり

前のように英語の論文で学ぶ姿に感銘を受けました。同時に、寮や病院を出れば英語がほとんど通じない世界、極力中国語を話すよう意識していました。伝統的なスイーツである豆花のトッピングを選ぶことにさえ苦労し、頭で理解こそしていましたが、英語を話せることが異文化を知ることではないと痛感しました。

一方で、英語が話せるからこそ深まった交流もあり、また、小児科が有名であるMackayの先生方が日本の周産期、新生児医療を



理学、依存症、薬物使用障害、睡眠障害、児童青少年精神医学についての知識を深め、外来実習では患者さんの問診をするという経験もさせて頂きました。呼吸器内科では、肺癌や喘息、Covid-19罹患後の患者さん、LAMを患った患者さんなどを診察する機会があり、病態の理解を深めるだけでなく患者さんの背景を知ることがとても重要なことだと感じました。回診時の診察の際には、患者さん

の聴診所見をとらせて頂くこともありましたが、患者さんやその家族の方を不安にさせないよう自己紹介や簡単な挨拶は中国語でできるように努めました。拙い英語での問診や中国での挨拶でも、患者さんに真摯に向き合えば必ず医師として信頼してくれると感じました。



北里大学病院 救命救急・災害医療センターでの研修を終えて

高度救命救急センター 助教 中山 弘 文
(救急災害・総合診療医学講座)

当科花田教授、北里大学病院救命救急・災害医療センター浅利教授のご厚意により、二〇二三年四月一日

留学だより

五月三十一日まで北里大学病院救命救急・災害医療センターにて研修をさせて

頂きました。病床数、スタッフ、コメディカル、研修医の数など何においてもその規模の大きさや人数の多さに圧倒されました。その中で救急外来初療、病棟管理、当直、ドクターカーなど様々な場面で体験した一端をご紹介いたします。

・救急外来初療
三次救急の重症患者さんが一日に数名運ばれてくる

（前ページより）
MO導入が開始されるシステムは非常に効率的でした。現在当科でも直接透視台へ搬入してECMOを導入できないか検討しております。研修後半にホットライン当番主任をやらせて頂きましたが、その日だけで重症患者が七、八人来て大変でした。外来・病棟のスタッフに「いい加減にして

くれー!!」と言われてしまいました（笑）、皆さん力を合わせて次々と初療を終わらせてくれました。
・病棟管理
病棟カンファでは病棟看護師、管理栄養士、リハビリテーション部、薬剤師など多職種で高度な議論が行われ、最新の知見も教えていただき非常に勉強になりました。また、自分は糖尿

病も専門なのですが、病棟の血糖管理についてスタッフの先生方から様々な質問を受けました。特にインスリン固定打ちの調整法を説明したところ、すぐに病棟管理に取り入れるなど、スタッフの先生方の向上心にも驚きました。

・当直

当直は三人体制＋研修医で、一晩に日中と同じくらい重症患者が運び込まれてくる印象でした。重症外傷もたびたび搬送されておりましたが、IVR班や外傷外科班が常に自宅待機しており、重症外傷でEがあればすぐに来院しIVRや手術を施行する体制が整っておりました。また、完全シフト制で当直日は夕から勤務開始、翌日午前中に勤務終了であり、当直明けに食べるラーメンは最高に美味しかったです。

マンパワーの問題でなかなかドクターカーを出せないことが多いのですが、北里大学救命では一日に数件出しており、救命士さんの運転でスピーディーに現場に行くことが可能でスタッフの処置も的確で速く、病院前診療として非常に勉強になりました。また、建設現場二階でのCPA（VF）の方にドクターカーで出動して現場でECMOを確立し、担架で一階まで降ろして搬送した話を聞きとても驚きました。当科も今後マ

ンパワーが増えたらドクターカーをもっと出していきたいと思います。
他、仕事以外でも何回か飲み会を開いていただいたり、誕生日ケーキを準備していただいたり、美味しいラーメンや行くべき観光スポットをたくさん教えてもらったりして、非常に楽しい研修となりました。今後、この経験を弘前大学救命での診療に活かしていきたいと思っています。北里大学救命センターの皆様、本当にありがとうございました。

年齢の変化も実感しています。
大学には同級生が多くいて、すでに病棟医長だったり、サブスペシャリティを取得し講演会や指導に引張りだこだったり、手術応援にきてくれたり、頼診すると診てくれたりと、とても心強いし、そういう同級生の姿をみて自分も頑張ろう！と思います。まずはロボット手術の助手・術者、次に腫瘍専門医、さらに細胞診専門医も大学勤務のうちに取得したいと考えています。いつも考えているだけなかなか行動に移せていないので、ここに宣言し必ず実行します。

最後に、産科婦人科は現在少数精鋭で頑張っており、大変かそうでないかと言われるれば大変です。でもどの科もその科なりの大変さがあると思います。大変でも自分で決めたい道なら、好きなら、興味があれば頑張れます。素晴らしい先輩後輩もいて忙しいながらも楽しく仕事ができます。産科婦人科を考えている学生さん、ぜひお待ちしております。



2023年産科婦人科スタッフ

コラム 医学部 こぼれ話

私は★バという喫茶店チエーンをこよなく愛している。とにかく店員の対応が気さくで細やかで気持ちがいい。私は二日に一回は訪れるのであるが、いつも注文はベンティサイズ（最大サイズ）の日替わりコーヒーである。しかも、ドリップコーヒーの二杯目を特別価格（百円）で購入できる。この後、私はインターネットで「チョコロス」で食されている国を必死に検索したが、勿論あるはずなかった。気付いてほしかった店員さんたちと私の話はこれで終わりである。「ご飯下さい」を「ライスですね」と返されイラッとすることはあるが、今回は脱力感しかなかった。私は公式文書での用語の誤りには細心の注意を払うが、日常生活ではどうもこのようなミスが多いような気がしてならない。ただ老兵の域に達する私だと、ひよつとしたら職場でも…と思うと、ぞっとする限りである。

そんな揚げ菓子に飽き始めていたある日のことである。注文後に店員が「はい、チョコロスですね」と言った。その瞬間に店員さんが漂わせた僅かな狼狽を私は忘れない。その後、私はインターネットで「チョコロス」で食されている国を必死に検索したが、勿論あるはずなかった。気付いてほしかった店員さんたちと私の話はこれで終わりである。「ご飯下さい」を「ライスですね」と返されイラッとすることはあるが、今回は脱力感しかなかった。私は公式文書での用語の誤りには細心の注意を払うが、日常生活ではどうもこのようなミスが多いような気がしてならない。ただ老兵の域に達する私だと、ひよつとしたら職場でも…と思うと、ぞっとする限りである。

二〇一二年弘前大学卒業、産婦人科十年目「おいきり」と言います。いろんな人に「珍しい名前ですね」「どこ出身ですか」と言われます。出身は八戸市です。八戸でも珍しく、私は親戚以外の「おいきり」は知りません。競馬と関係あるのかと聞かれたこともありま

初期研修二年を終えた後、そのまま同院で産婦人科一年目となり、その後つがる総合病院、弘前大学、弘前病院（現弘前総合医療センター）、大館市立総合病院、そして今年度から再度大学勤務となりました。前回大学勤務だったときは、産婦人科三年目で大学院生でもあったので、とにかくがむしゃらに臨床（ほぼ病棟）と研究をやっていました。今回十年目で大学に戻ってきて、病棟だけでなく外来業務も任されるようになり、また手術も指導する側に（もちろんまだまだ指導もたくさんしてもらっています）が、学生の指導や色々な委員会、講演会など、責任のある仕事が増え、立場の変化を実感しています。また、おばさん体型になり、会話の中で俳優の名前が全然出てこなくなり、年

最後に、産科婦人科は現在少数精鋭で頑張っており、大変かそうでないかと言われるれば大変です。でもどの科もその科なりの大変さがあると思います。大変でも自分で決めたい道なら、好きなら、興味があれば頑張れます。素晴らしい先輩後輩もいて忙しいながらも楽しく仕事ができます。産科婦人科を考えている学生さん、ぜひお待ちしております。

習などを通じて泌尿器科は優しくてフレンドリーな先生が多く、雰囲気は自分に合っていると思ったこと。そして何より弘前大学泌尿器科講座が海外学会での活躍など自信に満ち、輝いて見えたことが決定的でした。

学会発表に関しては、今年の五月にシカゴで開催されたAUA（American Urological Association）で発表する機会をいただきました。海外学会での発表は初めてで、英語がとても苦手な自分にとって質疑応答は不安しかありません（次ページへ続く）



泌尿器科に入学した理由はいくつかあります。診療科の特徴として内科医と外科医の両面を持ち、悪性腫瘍においては診断から治療まで当科のみで完結すること。大きな魅力を感じていたこと。学生時代の臨床実

泌尿器科二年目としての日常診療ですが、外来や透析では排尿障害や感染症治療、抗癌剤や免疫チェックポイント阻害剤といった化学療法など内科的診療を行っています。特に化学療法の影響や透析では症状や所見が全身に及ぶことが多く、全身を診る能力を求められていると痛感します。また、手術に関しては、内視鏡手術や開腹手術の執

泌尿器科二年目としての日常診療ですが、外来や透析では排尿障害や感染症治療、抗癌剤や免疫チェックポイント阻害剤といった化学療法など内科的診療を行っています。特に化学療法の影響や透析では症状や所見が全身に及ぶことが多く、全身を診る能力を求められていると痛感します。また、手術に関しては、内視鏡手術や開腹手術の執

泌尿器科二年目としての日常診療ですが、外来や透析では排尿障害や感染症治療、抗癌剤や免疫チェックポイント阻害剤といった化学療法など内科的診療を行っています。特に化学療法の影響や透析では症状や所見が全身に及ぶことが多く、全身を診る能力を求められていると痛感します。また、手術に関しては、内視鏡手術や開腹手術の執

泌尿器科二年目としての日常診療ですが、外来や透析では排尿障害や感染症治療、抗癌剤や免疫チェックポイント阻害剤といった化学療法など内科的診療を行っています。特に化学療法の影響や透析では症状や所見が全身に及ぶことが多く、全身を診る能力を求められていると痛感します。また、手術に関しては、内視鏡手術や開腹手術の執



統合機能生理学講座は二〇〇七年に旧生理学第一講座と旧生理学第二講座が統合され、藏田潔先生を教授として発足しました。統合

基礎／統合機能生理学講座(旧二生理)

統合機能生理学講座 准教授 木下 正治

(前ページより)
したが、今までになく、研究に打ち込むより、趣味に没頭するもよしといった柔軟性があります。今年度私は阪神タイガースの応援に没頭していましたが(笑)。また、来年は入局する後輩も多いようで、とても楽しみです。泌尿器科に興味がある方は是非講座に遊びにきてください。いつでもお待ちしております。



ペトコパークでサンディエゴ・パドレスの応援

後も旧一生理は山田勝也先生(当時准教授)が中心となり神経・脳代謝制御ゲループとして主に細胞レベルでの生体応答の研究などをほぼ独立して行い、また旧二生理は藏田潔先生を中心としてシステム生理学ゲループとして主にマカクザルの脳を対象としたシステム神経科学的な研究を行ってきました。

連領野などからニューロン活動の記録・解析することを中心とした研究として研究してこられました。このような研究手法を用いて、サルが対象を見てその対象に手を伸ばす際の到達運動についての解析を行い、視覚情報から運動制御情報への変換処理にあって、大脳皮質前頭葉の運動前野と呼ばれる領域が重要であること等を示されました。

二〇一三年に旧二生理に准教授として着任した木下正治は、従来の手法に加え、ウィルスベクターを用いたニューロン活動の操作を行う手法を組み合わせたことで、これまでは困難だった特定の神経経路を可逆的に遮断し、その機能を明らかにする研究を行ってきました。具体的には盲視象の神経基盤について調べ

ました。盲視とは、大脳の第一次視覚野に損傷のあるヒトは損傷視野に呈示された対象について「見えな」と答えますが、あてずっぽうでいいから指さして下さいと指示すると、偶然以上の確率で指さすことができる、という現象で、これは意識には上らない視覚情報処理の神経経路が脳にあることを示唆しています。これまでに中脳の上丘が盲視に重要であると知られていましたが、上丘から脳の高次視覚皮質に至る経路については諸説ありました。木下は上丘から視床枕への経路に着目し、一次視覚野を除去したマカクザルに対して、二種類のウィルスベ

クターを組み合わせ、この経路の情報伝達だけを選択的に遮断する実験を行い、盲視の視覚情報処理にこの上丘―視床枕の経路が重要であることを示しました。この成果はNature Communications誌で発表することが出来ました。旧二生理では藏田教授の時代の二〇一三年まで、教授も含め三、四名の少数の人員で研究・教育に当たってきました。二〇一三年以降は藏田先生および同年に着任した木下の二人になり、二〇二〇年に藏田先生が定年退官された後は、教授不在のまま、准教授一名となり現在に至っています。



小児科学講座

小児学講座 教授 照井 君典

小児科学講座は昭和二十二年に開設され、これまでに三百人以上の小児科医を輩出してきました。小児科の役割は多岐に渡り、子どものあらゆる内科的疾患の診療を担当するほか、保健や福祉、教育などにも関わっています。弘前大学小児科ではその中でも特に重症・難治な疾患の診療を担当しており、現在、血液、心臓、腎臓、神経・内分泌の四グループで診療を行っています。新生児グループは総合周産期母子医療センターである青森県立中央病院に拠点を置いています。

血液グループでは血液疾患のほか小児がんも担当しており、積極的に日本小児がん研究グループの臨床試験

に参加しています。中央診断施設の役割も果たしており、国内で発生するDown症候群の白血球とランゲルハンス細胞組織球症のほとんどの患者さんが当科で遺伝子診断を受ける体制となつています。また、難治性の血液疾患や小児がんなどの患者さんに対して積極的に造血幹細胞移植を行っています。心臓グループでは先天性心疾患、川崎病、不整脈などを対象としています。先天性心疾患の胎児診断に積極的に取り組み、産科婦人科や心臓血管外科と連携することにより治療成績の向上がみられています。腎臓グループでは腎疾患、自己免疫性疾患などを対象としており、より非侵

襲的かつ有効な免疫抑制療法の開発に取り組んできました。現在では生物学的製剤も積極的に取り入れています。神経・内分泌グループでは神経疾患、筋疾患、内分泌疾患などを対象としています。多くの新薬が使えるようになり、難治性けいれんに対する治療に進歩がみられています。小児は成長・発達の途上にあり、入院中であつても遊び、教育、家族支援など特別な配慮が必要です。新病棟は小児科に加え、小児外科、心臓血管外科、形成外科の小児患者さんのための病床も有しており、小児医療センターとしての機能も兼ね備えています。

研究については、Down症候群に合併する白血球と先天性赤芽球癆の研究を中心に行っており、分子病態の解明、遺伝子解析の臨床応用、新しい疾患の発見などについて成果を発表してきました。また、遺伝子解析技術の進歩により、これまで原因が不明であった希少難病の原因遺伝子を同定できるようになってきており、どのグループからも遺伝子診断に関する報告が増えています。卒後教育では、地域医療を支える「子どもの総合診療医」の育成を最も重視しています。子どもの病氣

をみるばかりでなく、予防接種、乳幼児健診、育児支援などの小児保健にも取り組まなければいけませんし、福祉や教育の分野に関わる機会も多くなっています。その上で、より専門的で高度な医療を担うスペシャリストを目指す体制になつていきます。少子高齢化が進んでいるからこそ、小児科医の役割は益々大きくなっています。これまで通り小児医療

や小児保健に取り組むとともに、虐待や貧困いじめ、不登校、発達障害や心の問題、医療的ケア児への支援など比較的新しい問題にも取り組んでいく必要があります。皆で力を合わせてこれらの問題に取り組む、小児医療を通して地域に貢献するとともに、世界に向けて情報を発信し続けていきたいと思っています。これからもしっかりお願いいたします。

総合文化祭 (医学展)

医学部医学科代表者
医学科4年 堀越杏奈

段々と寒さが増して冬の匂いがしてきた十月末日、今年も総合文化祭で医学展を開催することができました。今年は、長い間私たちの学生生活に多くの制限をもたらしてきた新型コロナウイルス感染症が第五類感染症へと移行し、コロナ禍以前の活気を取り戻した総合文化祭となりました。

今年の医学展二〇二三では昨年とは異なり、医学科のみならず保健学科五専攻と心理支援科学科も加えて、学科を超えた大規模な医学展を開催することができました。医学科はオリジナルで作成した症例動画と弘前大学医学部の紹介動画を放映しました。保健学科では各専攻で様々な展示や体験型ブースを出展しました。看護学専攻ではナース服の展示と血圧測定コーナーを設けました。放射線技術科学専攻では霧箱や測定器、レントゲン写真の展示を行いました。検査技術科学専攻では超音波検査の展示を行いました。理学療法学専攻では口コモ度テストを、作業療法学専攻では



豆つかみ体験とマクラメづくりを行い、実際に来場した方々に体験してもらいました。心理支援科学科では錯視の展示を行いました。

今年は天気恵まれない二日間となりましたが、二日間を通して非常に多くの方にご来場いただき、たくさんのご好評をいただきました。ただ、医学科に関しては以前のような体験型のブース展示を心待ちにしてくださっている方もおられたようで、コロナ禍以前のようなブース展示を再開できるよう、来年度以降さらに尽力していきたいと思っております。最後に、このように充実した展示内容で医学展二〇二三を開催できましたことに、この場を借りて感謝申し上げます。

医学展二〇二三の準備や運営に関わってくださった各学科の先生方、参加してくれた学生の皆さん、本当にありがとうございました。

来年度の医学展の開催にもどうぞ協力いただけると幸いです。



(表) 令和5年度 第66回東日本医科学生総合体育大会夏季競技の主な好成績

空手道部	男子 総合	準優勝
	男子 団体 組手	3 位
	女子 団体 組手	3 位
	女子 団体 形	4 位
	男子 個人 組手	濱本 周(6年) 3 位
	男子 個人 組手	横山理久斗(6年) 3 位
陸上競技部	男子 個人 形	横山理久斗(6年) 優勝
	女子 総合	準優勝
	男子 400mH	峯 正隆(4年) 準優勝
	女子 砲丸投	佐藤 佑奈(4年) 優勝
	女子 砲丸投	村上 桃子(3年) 3 位
	女子 円盤投	村上 桃子(3年) 3 位
ラグビー部		
柔道部	団体	準優勝
	男子 個人 60kg 級	早坂 脩真(4年) 3 位
ソフトテニス部	男子 個人 73kg 級	工藤 壮太(3年) 優勝
	女子 団体	優勝
卓球部	男子 ダブルス	岩崎 咲映(4年)・岡田 杏奈(6年) 組 3 位
	男子 ダブルス	田中 友浩(6年)・林 雄大(5年) 組 3 位
準硬式野球部		
バスケットボール部		
バドミントン部		

東日本医科学生総合体育大会、通称東医体は東日本医科学生体育連盟が主催する大会です。各加盟校には参加、理事、評議員がおり、大学の夏季競技終了時点の総合成績は全参加校三十八校のうち第九位、女子部門においては第四位と健闘し、多くの部活で優秀な成績を収めることができました。

本学の主な成績を表に示しましたので、ご覧ください。なお、冬季競技のスキーは三月に菅平高原で開催されます。

東医体出場にあたり、今年度も多くの方々からお力添えをいただきました。この場をお借りし、御礼申し上げます。今後も各部とも文武両道の精神で、学業に勤しみ、東医体冬季競技に向けて、また来年度の夏季競技に向けて練習に励んでまいります。引き続きご声援のほどよろしくお願いいたします。

第66回

東日本医科学生総合体育大会夏季競技を終えて

医学科4年 佐々木 実那

部活動紹介

バスケットボール Air Walk

Air Walk 代表 医学科3年 中嶋乙月



医学部バスケットボール AirWalk は、令和四年度に結成した非常に新しいサークルです。私自身、バスケット経験はありましたが、ブランクがあり、部活動でしっかりとやるよりはゆるく楽しむほうが性に合っていると感じ、同じようにバスケットが好き、スポーツが好き、という人を集めて、サークルを結成しました。AirWalk は、バスケット経験がなくても、バスケットが好きという人、バスケットが好きな人、部活動に所属していて息抜きをしたい人、先輩との交流を持ちたい人など、さまざまな人が楽しくバスケットをすることができると考えています。

クルです。また、学士編入生も多く、年齢・学年の垣根を超えて、和やかな雰囲気です。活動は約週一回で、土曜日、火曜日、水曜日のいずれかで、本町キャンパスの体育館や近隣の体育館を借りて行っています。テスト期間や帰省する人が多い時期は活動を減らすなど、サークルです。

現在部員は約四十人ですが、活動に参加しているのは毎回およそ十数人です。バスケットは五人で一チームなので、今の状態ではぎりぎり試合ができる程度です。サークルが新しすぎて、存在も知らない方がきつと多いと思います。そのため、少しでも興味がある方はぜひ一度見に来て欲しいです。今は部活に入っていないけど元運動部で、先輩とのつながりは欲しいという方、文化部育ちだけど運動不足解消にゆるい運動をしたいという方、バスケット経験はあるけどブランクがある方、放課後に時間が空いている方、どんな方でも大歓迎です。ぜひ一緒にバスケットを楽しみましょう！

インスタ: @hrosakimed-airwalk

医学部クイズ研究会

医学部クイズ研究会代表 医学科3年 中山 璃菜

当団体は今年五月に設立したばかりの新団体で、現在男子七名、女子七名が所属しています。毎週火・木曜に生協2F集会室4で対面活動、金曜にオンライン活動を実施しています。インターネットが発展

し、若い世代がテレビを観なくなりましたが、クイズ番組は昔からゴールデンタイムに君臨し、YouTubeでも動画のフォーマットとして確固たる地位を築いています。答えがわかると嬉しい(次ページへ続く)

第4回 若手研究者紹介動画

弘前大学大学院医学研究科

医学研究科では、各講座で研究されている40歳未満の若手研究者に、現在取り組んでいる研究内容や、研究を志したこれまでの経験を自ら紹介いただくことで、他の若手研究者や学部学生の研究に対する意欲を養うことに加え、紹介した若手研究者自身のモチベーションを向上させることを目的として、「研究者紹介動画」を作成・公開する取り組みを始めました。

第4回目は生体構造医科学講座の松田 澤奈（まつだみおな）先生。『実験動物に代わる皮膚モデルの開発研究に挑戦』を紹介し



大学院3年 松田 澤奈
(生体構造医科学講座)

医学研究科ホームページで
公開中！

紹介動画はこちら ↓



医学部クイズ研究会

（前ページより）
し、わからない場合も憶測で答えても面白い、新しいことを知ることのよろこび、などクイズは普遍的なレクリエーションです。
一九六〇年代、クイズ業界は過渡期でした。オイルショックで不景気を迎え、エンタメ業界が低予算で番組を制作するため打った手は、素人が出演するクイズ番組でした。それ以前もクイズ番組はありましたが、早押しスタイルが導入されたのも、クイズ王の存在が現れたのもこの頃と言われています。問題制作に際しては、過去の問題を基にするようになったことで「形式化」が始まったとされています。
クイズ王の正解に對して、アナウンサーが「何故だ、何故わかる？」と言いますが、早押しクイズの問題文には規則があります。例えば、「京都三大祭と言え、葵祭、祇園祭とあ」と一つは何でしょう？」という問題。京都三大祭は五月に葵祭、七月に祇園祭、十月に時代祭が開催されるため、最後の時代祭が聞かれるのが定型です。問題文だけでなく、読み方にも規則があります。所謂「さすが問題」は「さすが」の前の読み方がポイントです。文字で見ると同じ「日本で一番高い山は富士山ですが」という導入でも、アクセントが「日本」にあれば世界で一番高い山を聞かれ、「一番」にアクセントがあれば二番目に高い山を聞かれ、逆に読み下していれば二番を踏まえて三番を聞かれます。この形式化により、クイズにスポーツとしての性格が作られ「競技クイズ」というジャンルが成立しました。
私たちはレクリエーションとしてクイズを楽しみつつ、全国の競技クイズ大会での活躍を目指しています。お試しの参加も可能です。ぜひ活動に遊びに来てください。

ATVテレビ診察室に 出演して

呼吸器内科学講座 教授 田坂 定智

この度、二〇二三年九月四日放送分から四回にわたりATVテレビ診察室で呼吸器疾患の最新情報をお届けする機会をいただきました。前回二〇一六年に出演した際には肺炎など急性疾患をご紹介したので、今回は慢性呼吸器疾患について企画しました。第一回（九月四日放送）では私が慢性閉塞性肺疾患（COPD）についてお話ししました。COPDはタバコ煙を主とする有害物質を長期に吸入することで生じる肺の炎症性疾患で、喫煙習慣を背景に中高年に発症する「肺の生活習慣病」とも呼ばれます。喫煙はCOPD以外にもがんや心臓病など多くの病気の危険因子とな

りますが、青森県は全国でも喫煙率が高く、早急な対策が求められています。本邦では年間一六六千人以上がCOPDで死亡しており、来年度からスタートする健康日本（第三次）でもCOPD死亡率の低下が目標として盛り込まれています。COPDの治療は吸入気管支拡張薬が中心ですが、喫煙習慣があれば禁煙させることは言うまでもありません。他に呼吸リハビリテーションや、重症例には酸素療法も行われます。またCOPDには心疾患や骨粗鬆症、抑うつなど多彩な併存症があり、これらの予防や管理も重要になります。第二回（九月十一日放送）では、當麻景章診療准

加傾向です。原因菌であるMACは、土壌や水回りなどの環境中に存在しており、結核菌とは異なり、人から人へ感染することはあまりありません。肺MAC症の治療は複数の抗菌薬を組み合わせた化学療法ですが、難治例も少なくありません。最近アミカシンリポソーム製剤の吸入療法が保険適用になり、当科でも積極的に導入しています。第三回（九月十八日放送）は田中寿志診療講師から肺がんの薬物療法についてお話ししました。がんは日本人の死因として最多ですが、肺がんの死亡率はその中でも高く、年間七万人以上が亡くなっています。進行期の肺がんに対しては薬物療法が選択され



教授から肺非結核性抗酸菌症（肺NTM症）について解説しました。NTMとは結核菌と似た菌群を除外した抗酸菌の総称で、肺NTM症は国内で急速に増加していることが明らかになります。肺NTM症のほとんどを占めるのが肺MAC症で、中高年の女性で増

ATVテレビ診察室に 出演して

消化器内科、血液内科、膠原病内科 助教 速水 史郎



ATV青森テレビのテレビ診察室に出演しました。私に与えられたテーマは「胃の内視鏡検査」でした。一般には胃カメラと呼ばれることが多い胃の内視鏡検査ですが、正確には上部消化管内視鏡検査とい

「検査がづらい、大変だ」と考えている傾向があり、スコップが挿入される際の顎の出し引きや咽頭を通過するときのポイント、その後暖気（げっぷ）をなるべく我慢して速やかで正確な観察が望ましいです。また実際の検査画像を提示して咽頭、食道、胃、十二指腸の観察のポイントについて解説し、特に逆流性食道炎がでる食道胃接合部、十二指腸潰瘍の好発部位である十二指腸球部、ピロリ菌感染や早期胃癌の有無が重要な胃の観察などが重要であることを話しました。次に日常の臨床で患者様に質問されることが多い事項について説明しまし

（次ページへ続く）

公益社団法人 青森医学振興会

【沿革】 平成11年3月1日 弘前大学医学部医学科後援会鵬校医学振興会発足(任意団体)
平成13年4月2日 社団法人青森医学振興会設立認可
平成24年4月1日 公益社団法人青森医学振興会へ移行認定

当会では、青森県の医学・医療の発展を促進するため、次の事業活動を行っております。
○医学教育活動の活性化を図るための事業への支援
○医学・医療の高度化に資する医学研究事業への支援
○地域医療の振興に寄与する事業への支援
○海外との学術交流等の活性化を図るための事業への支援

随時、会員の募集とご寄附を受付しております。
本会の公益目的事業に対する寄附金（年会費を含む）は、確定申告をしていただくことにより税制上の優遇措置の対象となります。
年会費は、下記いずれかの口座へお振込み願います。
なお、**ご入会をご希望される方又はご寄附（年会費を除く）をされる方は、お手数ですが当会までご連絡をお願いいたします。** ゆうちょ銀行については、専用の払込用紙を用意しております。

口座名	公益社団法人 青森医学振興会			
口 座	青 森 銀 行	親方町支店	普通	1087485（お願い：振込手数料はご負担願います。）
	みちのく銀行	大学病院前支店	普通	0198579（お願い：振込手数料はご負担願います。）
会 費	ゆうちょ銀行	口座記号番号	02200-4-57580	(専用の払込取扱票を利用の場合は、振込手数料は無料)
	会員種別	年会費	参考…ゆうちょ銀行 では、専用の払込取扱票をご利用いただいても、窓口及びATMにおいて現金で払い込みをする場合には、 払込人様 が現金利用に伴う加算料金 110円 を別途ご負担いただくことになりますので、ご注意ください。（口座からのお支払いをお勧めします。）	
会 費	医学部教員	1万円		
	医学部卒業生等	2万円		
	賛同する個人	2万円		
会 費	賛同する団体	10万円		

お問い合わせ 公益社団法人青森医学振興会事務局
TEL・FAX 0172-40-2872 E-mail : info@aomori-mpm.jp

ATVテレビ診察室に出演して

消化器内科、血液内科、膠原病内科 講師 立田 哲也

（前ページより）
た。経口と経鼻スコープの違いですが画質やスコープの操作性に関しては前者が優れていますし、後者は検査の負担は多くの場合反射の起こりやすさに左右されるため、楽に検査を受けることができます。またピロリ菌の検査や除菌を保険診療で行う際には必ず上部消

化管内視鏡検査を受ける必要があります。多くの方に一度上部消化管内視鏡検査を受けていただき、特に胃に關してはピロリ菌感染の有無を確認していただくことが、自身や周囲の大切な人を守ることにつながることを改めて発信させていただきました。

二〇二三年十月二十九日放送のATVテレビ診察室に出演させていただきました。このような機会をいただきまして、関係者の皆様へ感謝申し上げます。お話しさせていただきましたテーマである食道アカラシアは、下部食道括約筋（LES）の弛緩不全と食道体

部の蠕動運動障害を認める食道運動機能障害です。食事の際のつかえ感などの症状や、誤嚥性肺炎を繰り返す場合もあり日常生活に大きな影響を及ぼします。また、食道癌のリスクが高いことも報告されており、的確な診断および治療が重要と考えます。診断は、上部

消化管内視鏡検査、食道造影検査、高解像度食道内圧検査により行います。内視鏡検査では食道胃接合部において、胃側の粘膜が観察されないロゼッタ兆候が特徴です。食道造影検査では鳥のくちばし様の所見、食道の拡張や蛇行を認めます。発症初期ではこれらの所見がはっきりせず、非びらん性胃食道逆流症との鑑別が困難ですが、高解像度食道内圧検査では正確に診断が可能となります。この検査はカテーテルを患者さんの鼻から挿入し、先端を

で少量の水を嚥下してもらい、食道蠕動やLESの弛緩を評価します。アカラシアの治療には内服治療、内視鏡的バルーン拡張術、外科手術が行われてきました。昭和大学江東豊洲病院の井上晴洋先生が開発した内視鏡下筋層切開術（Peroral endoscopic myotomy：POEM）は、全身麻酔下に内視鏡でLES部分の内輪筋を切開する治療法です。私は、二〇一六年度に昭和大学でPOEMを学び、二〇一七年度から弘前大学で本治療を開始いたしました。県内外からご紹介いただいた患者様六十名以上に対しPOEMを施行させていただき、多くの方が良い経過をたっておりま



人 事 異 動 (R5.9.1～R5.11.30)

●医学研究科所属

【昇任】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R5.10.1	むつ下北地域医療学講座	講師	西崎 史恵	総合臨床研修センター 助教
R5.10.1	小児科学講座	准教授	工藤 耕	小児科 助教
R5.10.1	泌尿器科学講座	教授	畠山 真吾	先進血液浄化療法学講座 准教授
R5.10.1	皮膚科学講座	教授	赤坂 英二郎	皮膚科学講座 講師

【採用】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R5.10.1	皮膚科学講座	助手	吉川 未雪	皮膚科 医員
R5.10.1	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	助教	三橋 友里	つがる総合病院
R5.10.1	総合地域医療推進学講座	助教	片貝 武	弘前総合医療センター
R5.10.1	内分泌代謝内科学講座	教授	藤田 征弘	滋賀医科大学医学部附属病院（糖尿病内分泌内科）
R5.10.1	医学研究科（脳神経外科学講座）	助手	柳谷 啓太	脳神経外科 医員
R5.10.1	脳卒中・血管内科学講座	講師	下田 祐大	下田クリニック

【配置換】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R5.10.1	救急災害・総合診療医学講座	助手	平井 直樹	集中治療部 助手

【辞職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R5.9.30	皮膚科学講座	助教	相樂 千尋	皮膚科 医員
R5.9.30	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	准教授	佐々木 亮	青森市民病院
R5.9.30	総合地域医療推進学講座	助教	角田 聖英	むつ総合病院
R5.9.30	脳神経外科学講座	助手	藤原 望	青森市民病院
R5.10.31	社会医学講座	助教	KYI MAR WAI	東京大学医学部

●附属病院所属

【昇任】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R5.10.1	小児科	講師	津川 浩二	小児科学講座 助教
R5.11.1	脳神経外科	講師	森田 隆弘	脳神経外科 助教

【採用】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R5.10.1	循環器内科、腎臓内科	助教	成田 憲紀	つがる総合病院
R5.10.1	整形外科	助教	坂本 祐希子	十和田市立中央病院
R5.10.1	整形外科	助教	古川 正和	八戸市立市民病院
R5.10.1	整形外科	助手	石橋 光	整形外科 医員
R5.10.1	脳神経外科	助手	佐々木 貴夫	十和田市立中央病院
R5.10.1	病理部	助教	木村 相泰	山口大学大学院医学系研究科
R5.10.1	高度救命救急センター	助教	鶴田 覚	青森県立中央病院

【配置換】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R5.10.1	集中治療部	助教	大山 翼	救急災害医学講座 助教

【辞職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R5.9.30	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	助手	一戸 大地	青森県立中央病院
R5.9.30	整形外科	助教	山内 翔平	むつ総合病院
R5.9.30	整形外科	助教	市川 奈菜	大館市立総合病院
R5.9.30	整形外科	助教	千葉 紀之	八戸市立市民病院
R5.9.30	脳神経外科	助手	水上 藍	青森県立中央病院
R5.9.30	総合診療部	助教	穂元 崇	社会医療法人博進会南部病院
R5.9.30	高度救命救急センター	助教	佐藤 健太郎	がん研究会有明病院

編集後記

本号の「学生だより」は五頁にわたって医学部ウォーカー始まって以来多くの頁数になっています。これも過去最多となる十九人の学部学生が、夏休みにハワイ大学、米軍三沢病院、台湾マツケイ病院でそれぞれ行った研修経験について寄稿してくれたからです。過去最多の理由は、コロナ禍で研修が止まった三年間に溜まっていた研修候補者が一斉に各地に飛び立ったからです。編集事務局からの依頼に全学生が応じてくれたのは嬉しい誤算です。寄稿数と頁数は、学生たちが待ちに待った研修に行くことができた喜びの表れと受け止めています。

本来であれば思う存分様々な経験にチャレンジすべき青春に、海外旅行はどうか、県境を越えた移動の禁止、不要不急の外出の禁止などで生活を制限される不運に学生たちは見舞われました。渡航直前で中止になった研修の「リベンジの気持ち」と書かれた記事もありました。コロナ禍でなければ出来なかった経験があったとしても、学生たちが三年間に出来なかったことを取り戻してほしいと思います。

十六頁には、東医体が四年ぶりの本格開催となったことが記されています。昔の学生に比べて学べき量が多い現在の学生たちですが、授業中とは違う表情で国内外で様々な活動できることは嬉しいことです。